

長 薬 同 窓 会 報

Alumni Association

School of Pharmaceutical Sciences

Nagasaki University

第 58 号 (2018年)

目 次

同窓会長挨拶……………佐々木 均 (昭53) ……………	1
薬学部長挨拶……………黒田 直敬 ……………	2
平成30年度長薬同窓会定期総会・講演会・懇親会……………	3
2019年度長薬同窓会定期総会のご案内……………	4
支部だより……………	5
関東支部, 近畿支部, 広島支部, 北九州支部, 福岡支部浦陵会, 大分支部, 熊本支部, 佐賀支部若楠会, 長崎県北支部, 長崎県央支部, 長崎支部ぐびろ会	
クラス会および近況だより……………	17
栗山正巳 (特), 齋藤義紀 (特), 大庭 誠・川邊雅則 (特・昭62), 山口剛志 (昭31), 日高喬子 (昭33) 井上萬里 (昭34), 井上 治 (昭35), 粟屋順子 (昭36), 馬場純好 (昭37), 幹事一同 (昭38) 福島和貴 (昭40), 伊豫屋偉夫 (昭41), 井上一顕 (昭42), 轟木幸子 (昭45), 森 賢造 (昭47) 津村恵子 (昭48), 松田米人 (昭50), 植松律子 (昭51), 町田 毅 (昭53), 春名克彦 (昭58) 金子富美 (昭59), 小川尚孝 (昭62), 秋吉隆治 (平 3), 津田由佳 (平 5), 都田真奈 (平 9) 目良国寛 (平10), 福地弘充 (院平14), 澤勢瑞城 (平15), 宮元敬天 (平20), 迎 武紘 (平24) 林田颯志 (平28), 松本善敬 (平29), 谷口隼輔 (平30), 久壽米木直弥 (平30) 佐藤雄大・山本 純・寶徳亮太 (平30修1), 鈴木莉乃・高崎晴稀 (学部4年), 増田智成 (学部4年) 本多湧大 (学部3年), 本多湧大 (学部3年), 角田 航 (学部1年), 池田朝美 (平28)	
クラブOB会だより……………	55
野球部, 硬式テニス部	
庶務報告……………	57
物故者氏名……………	57
下村先生を偲んで……………	58
会則変更について……………	60
寄附のご案内……………	61
学内記事……………	63
長薬同窓会役員名簿……………	65
長薬同窓会支部一覧……………	66
会計報告 (平成29年度決算, 監査報告, 平成30年度予算) ……………	67
同窓会事務局だより	
編集後記	



ご 挨拶

会 長 佐々木 均 (昭53)

今年（平成30年）より、長薬同窓会の会長となりました昭和53年卒の佐々木 均（長崎大学病院 教授・薬剤部長）です。今年は、集中豪雨、台風、地震と大きな被害が出た自然災害が発生し、災害への対策を再認識させられました。被害を受けられた皆様には心よりお見舞い申し上げます。

長崎大学薬学部は1890年に創立された日本最古の薬学部のひとつです。昨年、小島地区の佐古小学校が仁田小学校と統合する際、建て替え工事で日本初の西洋式近代病院「小島養生所」の遺構が発見されましたが、その際に、長崎大学薬学部の前身として1864年に建てられた分析窮理所の遺構も発見されています。また、原爆に被災した世界唯一の医科大学であり、長崎医科大学薬学専門部は一瞬にして焦土と化し、46名の関係者が被爆し亡くなりました。一方、薬学専門部を卒業した下村 脩博士は、生命科学に不可欠な緑色蛍光タンパク質（GFP）を発見し、2008年にノーベル化学賞を受賞しています。

このように、独特な歴史と高い教育力・研究力を持つ長崎大学薬学部は、多くの優秀な卒業生を輩出し社会に貢献してきました。長薬同窓会も同窓生に深く愛される存在ですが、さらなる活性化が必要です。優秀な卒業生とともに歴史を守り、相互の交流を増やし、若い卒業生や学生への積極的な支援や情報提供が重要です。

そのために、総会や支部会の開催に合わせ、同窓生の参加を呼びかけ、講演会など魅力的な運営に努めます。特に、同窓会への女性会員や若

手会員の参加を積極的に進めていくとともに、各地で活躍される同窓生の情報交換を推進します。長崎大学薬学部や長薬同窓会の現状や活動をSNSのFacebookなどを活用して情報発信していくことも計画しています。同学年の会員や若手会員の情報発信や情報交換には、仲間内のLINE（ライン）などを作っていただくことも応援していきたいと思います。ぜひ、同窓生同士をつなぐ架け橋の役割として、長薬同窓会を身近に感じていただければ幸いです。

長薬同窓会として、例年8月にはグピロが丘の薬専防空壕跡地の慰霊碑清掃、11月には諫早の小野島校舎跡記念碑清掃および昭和町校舎記念碑清掃を行っております。一方、薬学部の学生には、一年時に柏葉の章を付けた白衣の贈呈、薬学祭への補助、4年生には記念アルバム作成経費の一部補助を行いました。その他、6月には、全学の卒業生と現役学生との交流の場として開催される長崎大学のホームカミングデーに協力しました。

歴史のある薬学部ですが、現在、4年制と6年制の2つのコースになり、一緒に入学した学生も主に薬剤師になるものと、行政、製薬、その他の道に進むものにと、大きく分かれております。しかし、長崎大学薬学部を卒業した同じ同窓生として一生付き合える関係が重要です。長薬同窓会はその要（かなめ）となる役割を果たす必要があります。現在、寄附金を募集し、下村博士の胸像設立を進めようとしています。会員の皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願いいたします。



長薬同窓会の皆様へ

長崎大学薬学部長 黒田 直敬

長薬同窓会の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、常日頃より同窓会の皆様方には、長崎大学薬学部の教育研究に格別のご支援いただいておりますこと心より御礼申し上げます。

さて、既に皆様は新聞・TV等でご存知のこととは存じますが、本学部ご出身で、長崎大学名誉博士、同名誉校友である下村 脩先生が10月19日に、享年90歳で長崎市内にて永眠されました。薬学部にとって偉大な先達を失った悲しみはとても言葉では言い尽くせませんが、謹んでご逝去を悼むとともに、生前の温かいご指導に対し改めて御礼申し上げます。

下村先生は本学部の前身である長崎医科大学附属薬学専門部をご卒業され、さらに長崎大学薬学部で実験実習指導員、助手として勤務されたのち、名古屋大学を経て、米国でオワンクラゲの生物発光に関わる研究を始められました。2008年にはその成果である「緑色蛍光タンパク質の発見と開発」によりノーベル化学賞を受賞されました。これは、全国の薬科大学あるいは薬学部出身者では初の快挙であり、私たちにとって大変誇らしい出来事でした。長崎大学薬学部ではこれを記念して2009年に下村脩名誉博士顕彰記念館をオープンするとともに、2010年には先生のお名前を冠した下村脩博士ノーベル化学賞顕彰記念創薬研究教育センターを設置し、薬学部生、医歯薬学総合研究科薬系大学院生及び若手研究者を対象に創薬科学教育および研究の支援を開始しております。下村先生はご生前に、“どんな難しいことでも、努力すれば何とかなる。絶対に諦めないで、最後まで頑張ろうと。”というお言葉を後進に残して下さいました。このお言葉は、本学部の学生や教職員にとって大きな励みになっております。また、先生は生物発光研究の草分け的存在であり、先生のご研究の成果は、薬学や医学の基礎、臨床研究において、今やなくてはならない技術になっています。先生のこれまでのご功績と生命科学研究へのご貢献に対し、心より御礼を申し上げますとともに、ご冥福をお祈りいたします。

長崎大学薬学部では長薬同窓会との相談のもと、下村先生のご功績を讃え、後世に伝えるために、下村先生の胸像を製作し、記念事業をとり行うこと

を決定しておりました。既に、佐々木 均長薬同窓会長にもご同意をいただき、記念事業へのご援助とご支援をお願いし、下村先生にお伺いを立てて、設立の許可を得たところでした。下村先生のご存命中に胸像を完成し、記念事業にご参加いただきたいという願いは残念ながら叶いませんでしたが、当初の目的達成のため、事業は継続したいと考えております。同窓生の皆様には、何卒、本事業へのご理解とご賛同をいただきますよう謹んでお願い申し上げます。

なお、例年、この場をお借りして、人事異動の近況、国家試験の合格状況や就職状況について報告させていただいておりましたが、紙面の都合上、人事についてのみ簡単にご報告させていただきます。まず、3月に京都大学白眉センターから山吉麻子先生が機能性分子化学研究室に教授として赴任されました。また、4月に同研究室の柴田孝之助教が群馬大学に栄転され、9月には山本剛史先生が米国国立衛生研究所より准教授として赴任されました。8月には、育薬研究教育センター教授として都田真奈先生(平9)が大学院医歯薬学総合研究科免疫学分野からの昇任となりました。薬品製造化学研究室では1月に福田 隼先生が北海道大学より准教授として赴任され、10月には小嶺敬太助教(平24)が採用されました。また、実践薬学研究室では7月に兒玉幸修先生(平13)が長崎大学病院へ准教授として栄転され、8月には長崎大学病院から黒崎友亮助教(平17)が採用されました。薬物治療学研究室では、6月に稲嶺達夫先生(平18)が准教授に昇任されています。その他、近藤新二准教授(薬物治療学研究室)、浅井 将助教(ゲノム創薬学研究室)、淵上由貴助教(平22・医薬品情報学研究室)がそれぞれ、3月末日を以ってご退職されました。新しく着任された先生方の中には、本学部ご出身の先生も多くおられ、今後のご活躍・ご発展を期待したいと思います。

薬学部長の任期は2年間ということになっておりますが、今年度いっぱい2期目の最終年度となります。末筆になりましたが、これまでご支援、ご高配を賜りました同窓生の皆様に厚く御礼申し上げますとともに、長薬同窓会の今後益々のご発展と会員の皆様方のご健勝をお祈り申し上げます。

平成30年度長薬同窓会 定期総会・講演会・懇親会

本年度は関東支部（原 正朝支部長）のお世話で、平成30年6月2日（土）にアルカディア市ヶ谷で開催されました。84名の同窓会会員のご参加により、無事終了いたしました。総会後は、長崎大学薬学部稲嶺達夫准教授による講演

に続き衆議院議員国光文乃先生による講演会が開催され、その後の懇親会も盛会裏に終わりました。その模様を一部紹介いたします。関東支部だよりおよび庶務報告も併せてご覧ください。



総会の様子



新会長挨拶



講演会



講演会



薬学部長挨拶



乾杯



懇親会



懇親会



懇親会



懇親会



懇親会



懇親会

2019年度長薬同窓会定期総会のご案内

日時 2019年6月15日（土） 16：00～総会、講演会、懇親会（予定）

場所 ホテル阪急エキスポパーク

〒565-0826 大阪府吹田市千里万博公園1-5 TEL 06-6878-5151

万障お繰り合わせの上、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

近畿支部Webサイト <https://choyaku.net/kinki/> をご覧ください。

支部だより

●● 関東支部 ●●

支部長 原 正朝 (昭60)

今年の関東支部総会は6月2日(土)15時30分より、アルカディア市ヶ谷で長薬同窓会定期総会の前に開催しました。関東支部での長薬同窓会定期総会は平成21年に開催しましたので9年ぶりの開催です。総会には、関東支部から48名(同窓会総会には83名)の参加がありました。支部総会では、会計報告や事業報告ならびに本年度の事業計画の承認のちに、新たに関東支部の副支部長に就任された長尾公則さん(昭61)の承認と就任のご挨拶がありました。関東支部総会の後に、長薬同窓会定期総会が行われました。総会議事に先立って、櫻井登茂子さん(昭59)の指揮で校歌を斉唱しました。櫻井さんのソプラノの美しい声に導かれ、歌声が広い会場の隅々にまで響きました。特別講演は薬物治療学教室の稲嶺達夫先生(平18)より「University of California San Diegoでの研究留学」と題して貴重な米国留学の体験談を紹介いただきました。衆議院議員の国光文乃先生には「臨床

医から行政へそして、今政治の世界で目指すもの」と題して講演いただきました。国光先生は、長崎大学医学部をご卒業後、医師として勤務、その後厚生労働省に入省、保健局医療課課長補佐で退任、平成29年の衆議院総選挙で茨城第6選挙区から、元厚生労働大臣の丹羽雄哉氏の後継者として初当選されました。国光先生からは、少子高齢社会における、医療と介護等の現況と今後の方向性、薬局のあるべき姿などについて講演いただきました。懇親会は、卒年順にA～Jの10テーブルに分かれ、最年長の森田和之さん(昭30)の乾杯の後、歓談、懇親を深めました。アトラクションは長崎ならびに長薬に関連したクイズを、各テーブルの対抗形式で実施しました。クイズの司会は、宇佐昌芳幹事(平7)と森蘭文恵さん(平27)です。スクリーンに映し出されるクイズが長崎や長薬に直結した問題だけに、各テーブルともに正解を模索して熱い議論が繰り広げられ、大いに盛り上がりました。最後に、2019年6月15日土曜日に大阪で開催される長薬同窓会総会の案内が、近畿支部の伊藤 潔さん(昭59)から行われ、再会を期して、参加者最年少の米澤敬大さん(平30)による万歳三唱で、盛会のうちに終了となりました。



●● 近畿支部 ●●

支部長 末澤 克己 (昭47)

原稿執筆中、下村 脩先生の訃報(10月19日ご逝去)を知りました。先生の偉大なご功績、ご貢献に感謝いたしますと共に、心からご冥福をお祈り申し上げます。

平成30年度近畿支部総会は、10月14日(日曜日)昨年

に同じ大阪梅田グランド白楽天にて、支部会員21名と本部から川上 茂教授(副会長・平7)参加のもと開催されました。正確には、平成29年12月生まれの赤ちゃんの同伴もありましたので総計23名、昨年同数の集まりとなりました。

総会の部は森藤幹事(昭59)による進行で、前会報(57号)発表の後ご逝去された近畿支部関係4名の方に対する黙祷を捧げました。続いて川上先生から長薬同窓会の近況報告、下村 脩先生顕彰に関わるお話もあり、同窓

女性初の母校薬学部教授誕生などの喜ばしいお知らせもありました。議案については、伊藤幹事長（昭59）から過年度の会計及び監査報告、近畿支部ホームページの立ち上げ及び近畿支部設立100周年記念事業を含む平成30年度事業計画・予算案、支部役員の改選交替について説明され、いずれも拍手で承認されました。100周年の会と2019年度長薬同窓会総会を来年6月15日に併せて開催することの詳細は、伊藤幹事長から別途案内等も発出されるところです。

特別講演は、伊藤先生が座長を務め近畿大学薬学部臨床薬学部門・臨床薬剤情報学分野を主宰されている高田充隆教授（昭52）により「薬学における教育研究の現状と今後」という講演がありました。近畿大学、薬学部における先進的な取り組み、教育現場のご紹介がありました。また、ご専門の研究は膨大な医療ビッグデータを対象とした解析による医薬品安全性評価研究、リアルワールドデータの解析研究、更には8月28日のNHK総合ニュースで取り上げられたドラッグリポジショニング研究の紹介もありました。「既に使われている医薬品に、これまで知られていない効能が無いかを調べる」研究などで最先端の話題をわかり易く興味深くご教示、ご紹介頂きました。

懇親会は山澤幹事（平18）の先導で、校歌斉唱からはじまり、白石葉子先生（昭32）のご発声で乾杯と和やかに賑やかに始まり、各円卓で盛り上がり、旧交を温め、あるいは初めての挨拶と情報交換に花が咲きました。最後には加藤巧馬さん（平26）の挨拶・万歳三唱で支部総会は一旦終了、解散となったものの、話しきれなかった思いを語る方々約半数は次の会に移動しました。以上が支部総会のあらまし報告です。

さて、話は前後し最後になりますが、これまで長年、近畿支部にご功労のありました梶野 繁前支部長（昭42）と福岡転勤の志摩和貴幹事（平13）は退任され、替わって支部長、副支部長にそれぞれ私・末澤（昭47）と、尾山 廣幹事（昭60）が当たり、新任役員として迎 武紘幹事（平24）に入って頂くことになりました。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

ここに参加者のご芳名・卒年を記します（敬称略）。

川上 茂（平7）、白石 哲也（昭32）、白石 葉子（昭32）、遠藤 寛子（昭42）、木原 隆英（院昭43）、広本 淳子（昭44）、山内 平介（昭46）、末澤 克己（昭47）、高田 充隆（昭52）、江田 昌平（昭54）、伊藤 潔（昭59）、森藤 由香（昭59）、鷲尾 兼寿（昭59）、下田 幸枝（平2）、菓子野元郎（平8）、横山 聡（平12）、松本みさき（平15）、山澤 龍治（平18）、渡邊 裕之（平20）、藤尾 康祐（平21）、迎 武紘（平24）、加藤 巧馬（平26）



平成30年10月14日 於 グランド白楽天

同窓会活動でひと言、懇親会最後に発言したことも含め追記させていただきます。

今年の支部総会では平成卒の若手が増えました。平成30年、平成卒の方を一括りにはできないかもしれませんが、とにかく平成卒の方がこれからの同窓会の主力、主役になっていくことに違いありません。

その意味で、今回「昭和」、「平成」の参加者がほぼ拮抗したのは嬉しい限りですし、頼もしくも思います。「平成」の中には平成29年生まれの、松本みさきさん（平15）の赤ちゃんもカウントされますが、これからの同窓会のあり様は家族、赤ちゃん同伴歓迎でしょう。実は、高田先生の講演のとき、赤ちゃんは「アー、ウー」と元気に声を出して反応を示していたのですが、誰一人、ノイズに感じた人はなく、むしろ場をなごませるサウンドに聞こえたはずだと確信します。

ここで私はある会で聞いたマーク・グラノヴェッター（米国、社会学者）が提唱した「弱い紐帯の強み」という理論が同窓会のあり様のヒントになるのではないかと気づきました。「弱い紐帯（絆）の強み」とは、社会的ネットワークに関する仮説ですが、グラノヴェッターによれば、新規性の高い価値ある情報は、自分の家族や親友、職場の仲間といった社会的つながりが強い人々（強い紐帯）よりも、知り合いの知り合い、ちょっとした知り合いなど社会的つながりが弱い人々（弱い紐帯）からもたらされる可能性が高いといえます。詳しくは<https://jinjibu.jp/keyword/detl/599/>まで。

長薬同窓会は、偶々同じ学び舎だという縁で必ずしも強い絆でもないかもしれませんが、しかし年に一度のささやかな支部総会の出会いから、色々触発されることがあります。私も、まだ小さな赤ちゃんから触発、気づかされたのかもしれませんが。さらに加えて、伊藤幹事長らが、近畿支部のホームページ、メーリングサイトを10月に開設してくれました。これは「弱い紐帯の強み」を容易に引き出す装置を作ってくれたことを意味します。

来年の近畿100周年の会（長薬同窓会総会）は、100年に一度きりの弱い紐帯かもしれませんが、きっと皆さん、何か新しいことを見出す（勿論、これまでの旧交を温める、更にそれを強くするもよし）機会があるかもしれません。お待ちしております！

来年の近畿100周年の会（長薬同窓会総会）は、100年に一度きりの弱い紐帯かもしれませんが、きっと皆さん、何か新しいことを見出す（勿論、これまでの旧交を温める、更にそれを強くするもよし）機会があるかもしれません。お待ちしております！

●● 広島支部 ●●

支部長 青野 拓郎（昭52）

長薬広島支部同窓会を10月21日（日）に例年同様にホテルグランヴィア広島にて開催しました。広島カープが、今年は日本シリーズへ進出した話題などで開会前から盛り上がっておりました。

今年は、長薬同窓会会長の佐々木 均先生（昭53）をお招きしての開催となりました。ここ数年10名ちょっとの少し寂しい人数でしたが、久しぶりに多い18名での会となりました。

今回は、例年どおり橋口信彦先生（昭36）の司会で始まりました。支部長挨拶の後、一年ぶりに出席された工藤重子先生（昭32）による乾杯挨拶があり、会食懇談となりました。

歓談の合間に来賓の佐々木先生のご挨拶があり、長崎大学薬学部の近況について、お話をお聞きしました。「小島養生所」遺構に関する話は、初めてお聞きしたのでとても興味深いものでした。

近況報告では、今年こそ日本シリーズで優勝をとという話が多かったのですが、ご存じのとおりで残念な結果に終わりました。いつもの年と同様に旅行の話、現在の仕事の話やご自身やご家族の病気の話、ご家族の介護の話等、様々な出来事の話をお聞きしました。

大石輝雄先生（昭35）は、体調不良のため欠席する予

定であったが、元永育子先生（昭35）から強く誘われ出席したとのことでした。村上郁子先生（昭43）は、ご主人の村上 剛先生（昭43）が料理が上手だと言う話や、たくさんの習い事や趣味のカメラの話など時間をかけてお話しされました。品川龍太郎先生（昭44）は、奥様との旅行の様子について話されました。また、今年起きた西日本豪雨災害に関する被害について渡辺真由美先生（昭52）から土砂災害の様子や車1台が全損になったことをお聞きしました。岸川映子先生（昭60）からは、被災地における災害支援の話をお聞きしました。

近況報告が終わったところで写真撮影に移り校歌を斉唱し、最後に大石輝雄先生の閉会の辞及び乾杯で閉会・解散となりました。

出席者

来賓 長薬同窓会会長 佐々木 均先生（昭53）

工藤 重子（昭32） 大石 輝雄（昭35）

元永 育子（昭35） 橋口 信彦（昭36）

左利 龍彦（昭38） 村上 郁子（昭43）

品川龍太郎（昭44） 芦田マサ子（昭45）

曾根 正勝（昭46） 古屋 敏子（昭47）

青野 拓郎（昭52） 渡辺真由美（昭52）

後河内厚行（昭53） 林 奉権（昭55）

岸川 映子（昭60） 瀧口 益史（院平5）

手島 賢二（平8）



平成30年10月21日 於 ホテルグランヴィア広島

●● 北九州支部 ●●

支部長 増田 和久 (昭50)

北九州支部では今年度の総会および懇親会を平成30年9月8日(土)にステーションホテル小倉にて開催しました。平成27年に全体の定期総会をお世話させていただきましたが、支部会としては平成25年以来的開催となりました。少なくとも2年に1度とは思っていたのですが……。反省するとともに、来年



度以降は若い世代にも世話人に加わってもらい毎年開催を目指して参ります。

さて当日は副会長の中嶋幹郎教授(昭57)にご出席いただき、最年長の小島 弘先生(昭30)から最年少の白石亜希さん・永野 優さん(平30)まで総勢32名の参加が得られました。総会および中嶋教授の「大学の近況報告」は滞りなく行われ、引き続き懇親会に移りました。卒業年度順に集まったテーブルでは、大学時代を懐かしんだりお互いの近況報告をされたりと楽しい時間が過ぎていきました。最後に、校歌斉唱と万歳三唱を行い懇親会は締めくくられました。その後の二次会にも中嶋教授は参加していただきカラオケで美声を聞かさせていただきました。お忙しい中、誠に有難うございました。

それでは来年度以降、若い力で企画していただきもっと多くの同窓に会える事を楽しみにしています。



平成30年9月8日 於 ステーションホテル小倉

●● 福岡支部浦陵会 ●●

会長 池田 光政 (昭57)

今年度の長薬同窓会福岡支部浦陵会は、酷暑の続く9月2日の日曜日、福岡市天神の平和楼本店にて、12時からの総会に続いて、12時半から懇親会が開かれました。

今年は長薬同窓会の山口正広副会長(昭56)に長崎からお越し頂き、最年長の昭和24年ご卒業の松本康裕先生から、最年少の平成30年卒業の野村紗希子さんまで、薬剤師国家試験でいえば、1回目から今年の103回までの合格者が集うという、幅広い年齢層、そして、男女比も男性22名、女性15名、平成の卒業生8名を含む総勢37名にご出席をいただきました。

古川 淳先生(昭25)をはじめ、有吉敏彦先生、石黒正恒先生など特別会員の先生方にもご出席賜り、恩師の先生方のお元氣なお姿に、教わった我々は皆元氣を頂きました。また、今年も中津在住の中島徳子さん(昭59)、行橋の原口桂子さん(昭59)、熊本の山本喜一郎さん(院昭55)など、遠くからも駆けつけていただきました。

ご出席いただいた皆様に、浦陵会幹事一同、改めて感謝申し上げます。

恒例の参加者の近況報告では、「今朝大濠公園走ってきた!」という会員が偶然同じテーブルに座っておられたり、初めて参加された女性会員は錦江湾を泳いで渡った体験談を披露されたり、石黒先生に指導された会員たちのテニス談義で盛り上がるなど、スポーツに熱心な会員が多い印象でした。一方、退職を機に新たな勉強を始めるにあたり、在学中の記録を求めた女性会員は、実験

で意外にいい成績を先生たちがつけてくださっていたことを知った事実を、報告されていました。特に、物化の教授の河原先生など当時とても厳しい指導をされながらも、先生方が高い評価をしてくださっていた・・・というエピソードも紹介されました。出席者の多くは“ガラス細工の河原先生”を思い出していたようですが、先生方の愛情を今更ながら思い知らされ感激する!という声も聞こえてきました。また昭和25年ご卒業の岸川 良先輩からは、原爆投下後長崎で当時日本を代表する音楽家のチャリティ演奏会があり、そのお手伝いをされた思い出が披露されました。音楽と言えば、2016年に福岡で長薬同窓会定期総会を開催した際に、パワフルな歌声を聴かせてくれた、ジャズヴォーカリストでもある平成7年卒の浦上眞紀さんも参加してくださっていましたが、今回はギターをもってきて唄っていただけるとのことです、今から楽しみです。なお、長薬同窓会の縁で浦陵会の女性会員2名が浦上さんにジャズヴォーカルを教わっているようです。浦陵会の交流がきっかけとなり、一人一人の会員同士で縦糸、横糸がしっかりと繋がって、長薬の



平成30年9月2日 於 平和楼本店

歴史が色鮮やかに編み込まれている事を実感します。

二次会は雰囲気をはらりと変え、県庁の市村さんが準備してくれたソラリアプラザ地下のDEAN&DELUCAで91歳の松本先生から社会人1年生の野村さんまで、20名以上のご参加で、ワインやおしゃれなデリで親交を深めました。

「今回初めてで、一人での参加で不安だったけど、楽しかった！」というお声もいただきました。来年の浦陵会もまた多くの出逢いと再会の場になるよう、沢山の方の参加をお待ちしています。お一人様大歓迎です。

参加者

山口 正広 (昭56)	石黒 正恒 (特)
有吉 敏彦 (特)	松本 康裕 (昭24)
岸川 良 (昭25)	古川 淳 (昭25)
内堀 繁吉 (昭33)	辻 孝 (昭33)

井口博太郎 (昭38)	小寺 信 (昭47)
倉田 啓二 (昭50)	緒方 信明 (昭50)
山本喜一郎 (院昭55)	杉山 翠 (昭56)
植田 龍子 (昭56)	池田 光政 (昭57)
山川 恭代 (昭57)	首藤 英樹 (昭58)
松原 大 (昭58)	森田 宏樹 (昭59)
金子 富美 (昭59)	中島 徳子 (昭59)
中垣 春美 (昭59)	藤澤 晶子 (昭59)
原口 桂子 (昭59)	清澤 聡 (昭60)
久松 貞義 (昭60)	富永 伸明 (昭60)
市村 清隆 (昭61)	徳永 類子 (平1)
吉田美恵子 (平1)	中村 桂子 (平1)
加藤 美枝 (平5)	浦上 眞紀 (平7)
林 直樹 (平12)	池田久美子 (平17)
野村紗希子 (平30)	

●● 大分支部 ●●

支部長 石橋 眞 (昭49)

平成30年1月20日(土)午後6時30分、アリストンホテル大分チャイナダイナー(大分市)にて、長薬同窓会大分支部総会及び新年会が開催されました。来賓として本部から川上教授(編集幹事・薬剤学出身・平7)をお招きし、川上先生は大分での同窓会は初めてとの事でした。

大分県には平成7年卒が2名いますが、今回は参加者がいなかったのは残念なことでした。私が出席依頼の電

話をした時に、その中の一人のつぶやき「川上くん、出世頭ね、凄いね」と……。また、薬剤学出身の参加者、都留くん(昭55)、下村さん(平14)の2名がいて、特に下村さんは川上先生の教え子で懇親会の場では、昔ばなしに花を咲かせていました。

出席者は例年20~25名に留まっていますが、平成28年に31名の参加があり、16年振りの30名超えで、事務局も大変喜びあったところです。そして、平成29年は33名、去年は28名と3年連続30名超えとはなりませんでしたが、大変賑やかな会となりました。

総会は、陸丸幹事(院平15)の司会進行により進められました。議事に入る前に、恒例の写真撮影、支部長あ



平成30年1月20日 於 アリストンホテル大分チャイナダイナー

いさつ、そして来賓の川上教授からごあいさつ及び報告が行われました。その中で小島養生所に関する記事を掲載したいと思います。

- ・2年ほど前、日本で初めての西洋式近代病院である小島養生所・医学所・分析究理所の遺跡が旧佐古小学校跡地（小島の丘）から発見された。
- ・小島養生所等があった場所は、現在仁田佐古小学校の新校舎建設を進めている場所で、旧佐古小学校敷地において発掘調査を行った結果発見された。
- ・小島養生所等は、日本における西洋医学教育発祥の地として歴史的に果たした役割は大きい。
- ・分析究理所を長崎大学薬学部へのルーツとする意見もある。
- ・明治23年に医学部に薬学科を創設し、この年を長崎大学薬学部の創立年とする。
- ・現在、小島養生所等遺跡の保全に向けての署名活動が行われている。

など大変興味深いお話がありました。

その後陸丸幹事より収支決算や会員の異動等の報告があり、そして、我々の誇りである下村博士と同級生であり最後の薬専卒業生である西川大先輩（昭26）の乾杯のご発声で懇親会が始まりました。

西川先生は顔が艶やかで背筋もぴんと伸びていらっ

しゃいますし、御年88歳で月に1回はゴルフに行かれるというほどお元気です。西川先生にお会いしたくて出席している参加者も多いと思いますので、これからもずっと素敵な笑顔を私達に見せていただきたいものです。

会員の皆様方（昭和26年卒の長老から平成28年卒の若人）は、円形のテーブルに分かれて座り、世代の垣根を超えて料理やお酒を楽しみながら、学生時代や現在の仕事の話に華を咲かせていました。時間が経過し宴が盛り上がったところで、毎年、恒例の卒業年次が若い順に近況を語りながらの自己紹介が行われました。今回は、初出場が3名もいて、大変喜びながら、彼女達のコメントも大変興味深く聞いたところです。

さて、会の最後にはいつも巻頭言、校歌斉唱、万歳三唱と続きます。堤 勝也君（昭62）の巻頭言はこれまでも何度も聴いていますが、今年もすばらしく、堂々たる声に聞き惚れながら、全員で校歌を熱唱しました。万歳三唱は男性の参加者でもっとも若い森 仁志君（平19）の締めで散会となりました。終わりに、来年の同窓会には、今年よりも1名でも多くの方々が足を運んでくださる事に願いをこめながら筆を置きます。

川上先生、豊後の国大分までお越しいただきありがとうございました。

●● 熊本支部 ●●

支部長 山本 喜一郎（院昭55）

熊本地震から2年半が経過しました。災害復興は大分進んできているとはいうものの、屋根にブルーシートがのった民家は散在していますし、街中では外装工事がやっと始まったというビルもあります。避難所生活を余儀なくされている方もまだまだいらっしゃいます。

さて、平成30年度の熊本支部例会は予定通り9月の第一土曜日、9月1日に千葉城町の“KKRホテル熊本”にて開催しました。会場のKKRホテル熊本は熊本城に隣接し、間近に復旧途上の熊本城の姿を仰ぎ見ることができます。今年の参加者は10名でした。残念ながらこれまでの中で一番少ない参加人数となってしまいました。来年はより多くの会員に参加していただけるように、積極的に働きかけていきたいと思ひます。

開会の挨拶の後、昨年に引き続き同窓会本部から来ていただいた副会長の七種先生（昭56）から長薬同窓会活動として、肩に柏葉のマークが入った白衣の新入生への贈呈についてや、ぐびろが丘慰霊碑や小野鳥校舎記念碑、昭和町校舎跡記念碑の清掃活動の紹介がありました。ただ、残念なことに七種先生持参のパソコンと液晶

プロジェクターのコードコネクタの形状が合わず、スライドでのプレゼンができませんでした。また、薬剤師国家試験の結果や卒業生の動向の紹介もありました。更に、驚いたことには、新しい事業として下村博士の胸像建立の動きがあるとのことでした。

続いて参加者の近況報告です。矢上くん（院昭57）は八代の卸会社に片道2時間の新幹線通勤で通いながら、熊本保健科学大学で学位の取得を目指しているとのことでした。矢田さん（昭60）と木山ご夫妻（昭59・昭57）からは、9月半ばに仙台で、11月に福岡で、お嬢さんが結婚式を挙げられるとの嬉しい報告がありました。木山夫妻は昨年の支部例会には欠席でしたが、その理由はお二人とも同じ時期に大変な怪我をされたからとのことでした。奥様の容子さんは翌週足に埋め込まれたプレートとボルトの除去手術を受けられるとのこと。岩下さん（昭52）は、今年4人目のお孫さんが生まれたそうです。現在の悩みは、薬剤師が自分一人なので、土曜日に開催されるお孫さんの運動会を見に行くことができないことだそうです。秦野くん（昭56）は、お嬢さんが大分県の大学に入学されて、彼や奥さんの実家が大分なので、毎月のように大分通いをしているとのことでした。古川くん（昭54）は昨年末に勤務していた保険薬局を定年退職し、現在は自宅でゆっくり過ごしているとのこと。午前中は近所の公園を散歩あるいはジョギングし、午後は用

事が無いときは昼からお酒を飲むことがあると、なんとも羨ましい生活です。メルボルンへの出張から昨日帰ってきたばかりの松尾くん（昭59）は、年2回のマラソン出場を目標としていて、今年は2月に熊本城マラソンを完走し、11月には福岡マラソンに出場予定とのこと。来年は、奥さんが大河ドラマの“西郷どん”にはまっている関係から、鹿児島マラソンを狙っているそうです。目標はフルマラソンで5時間切り。これまでのベストは鹿児島で5時間10分とのこと。3月に初孫が生まれた私、山本は、9月一杯で熊本県薬剤師会を退職することになりました。これからどう過ごすか模索中です。

話し足りなかった面々は二次会へとなだれ込み、楽しい時間を過ごすことができました。参加の皆さん、あり

がとうございました。

熊本支部の皆様、例会は毎年9月の第一土曜日に開催しています。来年は9月7日（土）開催予定ですので、是非ご参加下さい。お待ちしております。

参加者

来賓：七種 均（昭56）

岩下 淑子（昭52） 古川 真一（昭54）

山本喜一郎（院昭55） 木山 容子（昭57）

秦野 正敏（昭56） 矢上 一英（院昭57）

木山 雄一（昭59） 松尾富士男（昭59）

矢田 道代（昭60）

（以上10名、敬称略）



平成30年9月1日 於 KKRホテル熊本

後列左より、矢上、古川、秦野、木山（雄）、松尾
前列左より、矢田、山本、七種、岩下、木山（容）

●● 佐賀支部若楠会 ●●

幹事 志岐 寿子（平4）

平成30年度の佐賀支部若楠会総会及び懇親会は平成30年4月22日に佐賀市内にあるニューオータニ佐賀において開催されました。今年の参加人数は19名でした。

総会では、長崎大学薬学部校歌斉唱に続き、来賓の山中國暉先生（昭43）から長崎大学薬学部同窓会のお話を、また、川上 茂先生（平7）から長崎大学薬学部の近況のお話をいただきました。

その後、藤戸 博支部長（院昭52）から挨拶があり、議長に木寺健司先生（平15）を選出、議事を終え、写真撮影を行い、懇親会へと移りました。

懇親会では、乾杯の音頭を楢崎妙子先生（昭36）に託していただきました。

同窓会の時に歌う薬学部校歌を近頃は学生時代に歌わなかったためよく知らないという話が話題にあがりました。また、仕事の話から子供の話までいろんな話ができ、楽しい時間を過ごすことができました。最後に田中博輝先生（昭39）の万歳三唱で散会となりました。

新卒者の方は、懇親会費が無料です。是非皆さん同窓会に参加して、旧交を温め有意義な時間を過ごしませんか。次回同窓会ではたくさんの皆さんのご参加お待ちしております。



乾杯の音頭



万歳三唱

出席者

山中 國暉 (昭43)	川上 茂 (平7)
橋崎 妙子 (昭36)	田中 博輝 (昭39)
富永 義則 (昭44)	富永 律子 (昭47)
大坪 美穂 (昭47)	大間 賢一 (昭47)
西田多津子 (昭49)	池田 知子 (昭49)
綾部由紀子 (昭50)	八谷 緑 (昭50)
藤戸 博 (院昭52)	佛坂 浩 (昭61)
福田 朱美 (平2)	志岐 寿子 (平4)
中山 智美 (平4)	木寺 健司 (平15)
稲田 善行 (平17)	



平成30年4月22日 於 ホテルニューオータニ佐賀

●● 長崎県北支部 ●●

支部長 相川 康博 (昭48)

平成30年10月20日の夕方5時から、昨年と同じく佐世保グリーンホテルいけ洲博多屋において、支部同窓会を開きました。会員の参加が16名と、昨年より少なく残念でした。そして、同窓会からは山口正広副会長 (昭56) に来ていただきました。

会を始めるにあたり、日程が私の都合でこの日しかなく、参加が少なくなったのかとお詫び申し上げ、会計簿を先ほど荻野 (昭62)、中村 (平16) のお二人に見てもらい、間違いないことを確認してもらったと会計報告して始めました。

続いて来賓の山口副会長から、挨拶と同窓会の最近の状況を報告していただきました。今年の国試の結果と就職状況、入学状況について説明があって、同窓会の活動状況を報告していただきました。中でも、今回下村 脩先生 (昭26) の胸像を製作することが決まり、そのために今後寄附を募ることになり、会報に同封されて案内が届くはずなので、よろしく協力をお願いするとの話がありました。

冒頭のセレモニーを終わり、松本功治先生 (昭41) の

発声で乾杯し、その後歓談の時間に移りました。

しばらく料理を堪能してもらった後、いつも通り名簿の卒業年順にそれぞれの近況を報告してもらいました。始めに特別会員の大庭先生に続き、松田先生 (昭25) が昔の歴史を語っておくからということで、自分は長崎医科大学附属薬学専門部の時代であり、原爆被爆後で小野島校舎時代を過ごしたが実験道具などほとんどなかったこと、その後は片淵町校舎、昭和町校舎、そして文教町校舎に移った薬学部の歴史と、当時の国家試験は春秋の2回のチャンスがあって、3者か5者選択で今よりも楽だったということ。それからノーベル賞受賞の下村先生は、聖心幼稚園、白南風小学校、旧制佐世保中学校と学童期を佐世保市で過ごされていて、この地に縁がある人だと話がありました。

続いて末武先生 (昭29) が、新制薬学部卒であると強調されました。その後は、順に近況を面白可笑しく、また真面目に報告が続きました。欠席者のコメントも回覧しました。

歓談も進み料理も残り少なかったころ合いで、テーブル越しに全員で集合写真を撮った後、残った料理を「勿体ない精神」で残さずいただきました。

2時間を経過し、会を閉めようかということになり、橋本次男先生 (昭50) に万歳三唱の音頭をとっていただ

くことになり、皆声高らかに万歳をして会をお開きとしました。次回は、もう少し参加者が増えればいいな、特に平成卒の若い人の参加が増えればいいなと思います。

その夜のこと、2軒目のスナックで松本先輩と2人で飲んでいるときに、下村先生が亡くなったという情報を得ました。さっき胸像を作るという話を聞いたばかりなのに、本当に驚くとともに残念です。先生は佐世保市の名誉市民であり、「下村脩ジュニア科学賞SASEBO」コンクールの表彰式など、何度も佐世保に足を運ばれ「決して諦めてはいけない」が口癖でした。ご冥福を祈ります。

出席者

大庭 義史 (特)	松田 雄光 (昭25)
末武 和子 (昭29)	松尾 幸子 (昭34)
林田 匡代 (昭36)	松本 功治 (昭41)
中島憲一郎 (昭46)	大井 和子 (昭47)
田代佐夫子 (院昭48)	相川 康博 (昭48)
宮田 節子 (昭48)	橋本 次男 (昭50)
榊原 隆三 (院昭50)	光富 吉朗 (昭52)
荻野 清子 (昭62)	中村 沙織 (平16)



平成30年10月20日 於 佐世保グリーンホテル いけ洲博多屋

●● 長崎県央支部 ●●

支部長 田中 秀二 (昭46)

雲仙では紅葉が見頃となり、風が心地よい秋晴の平成30年10月28日正午、18名の同窓生の出席を頂き、諫早駅前の「お茶の間通り」にあるイタリアンレストラン「スプーンフル カフェ (Spoonful Cafe)」において、同窓会から七種副会長 (昭56) を迎え平成最後となる県央支部総会及び懇親会を開催致しました。

総会では、まず、副会長にご挨拶と大学や同窓会の近況や活動についてお話をお願いしたところ、冒頭、先日お亡くなりになった下村先生のご冥福をお祈りする言葉と合わせ、柏葉会館内に下村脩名誉博士顕彰記念館がオープンし、博士のご功績を称える多くの貴重な資料を展示している旨の紹介がありました。その他、グビロが丘の慰霊碑周辺や小野島校舎跡記念碑周辺の清掃及び学部1年生への同窓会ネーム入り白衣の贈呈など同窓会の活動について詳しいお話がありました。

また、昨年、前会長が熱く語られておりました、長崎

市西小島の旧佐古小学校跡地から、医学所と附設された養生所及び分析究理所などの遺構が見つかったことに触れ、この中の分析究理所は長崎大学薬学部のみならず日本の薬学部の起源であり、この場所に何らかの記念となるものを残す必要があると強く語られました。

最後に私から次の支部長を快く引き受けて頂いた西村さん (昭50) を紹介致しました。

総会に引き続き、例年のごとく、最長老でお元気な山本さん (昭30) に乾杯の音頭をお願いしたところ、「実は、私の学生時代に、先日お亡くなりになった下村先生が実験実習指導員をされており、先生から分析の実習を受けた懐かしい思い出があります。先生は物静かで温厚なお人柄でした。乾杯の前に、先生のご冥福を祈り黙とうを捧げたいと思います。」との呼び掛けがあり、故人を偲び全員で黙とうを捧げました。

乾杯の後、懇親会が始まりました。少しお酒の入った頃を見計らい、参加者の方々から近況などについて伺いましたので、その一部をご紹介します。

「下村先生から分析の実習を教授された懐かしい思い出があります。」「長崎に原爆が投下され、戦後、薬学部は佐賀、小野島、昭和町など学舎を転々としてきました。これらのこ

とは長崎大学薬学部百年史に詳しく記載されています。」「百年史をひもといて見ますと、父が薬専ラグビー部のメンバーとして写真に写っておりまして。また、下村先生は薬専最後の卒業生で小野島校舎に通学されていたようです。」「下村先生がノーベル賞を受けられ早十年、今年お亡くなりになり年の流れが早く感じられます。」など、今回は、下村先生に関連した話や薬学部の歴史に関する話題が多く出されました。

また、「子供たちが巣立ち、手が掛からなくなってきました。」「年金を受給する年が近づき、新薬が次々と発売されますが、薬の名前がなかなか出て来ません。」「来年、卒業後50周年となります。何らかの行事を考えたい。」「昨年、体調を壊し欠席しました。入院養生後、今年は何とか出席出来ました。」「教え子の70歳となる古希のお祝いに呼ばれました。歳を感じます。」「昭和は遠くなりにけりとの言葉を身に染みて感じています。孫が薬学部を卒業し就職しました。」「今年の同窓会五つ目で最後がここです。」など皆さん年齢を感じながらも前を向いて進んでおられる様子が伺えました。

その他「趣味と実益を兼ね防災グッズの収集を行っています。」「薬局を開設していた父の残した原爆直後の長崎市内の様子を描いたスケッチが、来年の春まで原爆資料館で展示されているとのこと。」「おくんちを見に長崎へ行き、ココデショと一緒に歩いて回りました。」などの興味深く微笑ましいものもありました。また、「歴史に興味を持ち、古文書を読んだり、勉強会で学んでいます。」との素晴らしい話があり、衰えない探究心に皆さんから感嘆の声があがりました。

近況報告の間も会話が弾み、終始大変和やかな雰囲気では進みました。

ここで、返信葉書の通信欄に寄せられた方々からの近況の一部を紹介させていただきます。高齢の方からの通信が多いことから、健康を害されておられる方々からの便りや「早くから決まっていた用件と重なってしまったので申し訳ございません。古希を迎え元気で楽しい70歳代を過ごせたらと願っています。」「親の介護で勤務日数を減らしました

が、バタバタの慌ただしい毎日です。」「所用のため参加できません。本当に残念です。日々、仕事に、健康面に多少の問題を抱えながらも、それなりに過ごしております。」「下の息子が学校を卒業し、働き始めました。ライフワークのボランティア活動にもっと打ち込めるようになればと思っております。」など齢を重ねつつ、多忙なりに生活を楽しんでおられる様子が伺える便りなどがありました。

皆さん時間が経つのも忘れ、尽きない会話を楽しんでおられましたが、閉店時間が迫り、最後に若い世代を代表して山口さん（昭56）の一本締めで締めくくり、楽しいひとときを過ごした会場を後にしました。

ところで、まだ参加されていない同窓生の皆さん、支部同窓会は、家族的で大変和やかな雰囲気ですよ。ぜひ一度参加されてみては如何ですか。次回はより多くの方々の参加をお待ちしております。

最後になりましたが、今年参加された方々を紹介させていただきます。

(出席者)

来賓 七種 均 (昭56)	山本 勲 (昭30)
熊本 公子 (昭33)	坂本 滋子 (昭34)
松村 祐子 (昭40)	小松 芳文 (昭41)
早崎 義信 (昭41)	平山 文俊 (昭41)
内田 民子 (昭44)	中村 和子 (昭44)
岩永 直子 (昭46)	香月幸一郎 (昭46)
田中 秀二 (昭46)	西村 昇 (昭50)
藤原 正晴 (昭51)	佐藤 恵子 (昭52)
山口 正広 (昭56)	高良 真也 (昭57)
山口 綾子 (昭60)	

追伸

今回は近くのスナックで二次会を設定したところ、参加者は5名と少ないながら、カラオケと忌憚のない会話で楽しい充実した時間を過ごしました。



平成30年10月28日 於 スプーンフルカフェ

●● 長崎支部ぐびろ会 ●●

会長 澤勢 瑞城 (平15)

去る平成30年6月30日にホテルニュー長崎にて行われた長崎支部ぐびろ会総会において会長に就任いたしました。学生時代から成績は常に低空飛行、能力至って平凡、素行も芳しくなかった私は常に同級生の足を引っ張ってきた存在でしたが、そんな私にこのような大役が巡り巡ってきたことは、きっと学生時代に人様にご迷惑をおかけした分、しっかりと社会貢献せよという天命であると感じています。また前会長の中嶋誠一先生(昭49)は西大村中学校、大村高等学校の大先輩であり、奥様の中嶋七重先生(昭50)には大学を卒業して間もない頃に同窓会にて当時開業を夢見ていた私に心構えやノウハウをレクチャーして頂いており、今こうして考えてみるとご縁があるなあと感じ深く思うところです。

さて、ぐびろ会会長という長い歴史のある会の大変名誉な役職を引き受けるにあたり若輩の自分に何ができるかを自問したところ、平凡の塊である私が何か特別なことができようはずもなく、唯一あるとすればそれは若さを活かした動き、フットワーク軽く様々なところに出向いて活動していくことだろうと考えています。年齢で言いますと、ぐびろ会を長きにわたって支えて下さった先輩方と卒業間もない会員のちょうど中間の年代となります。その世代間の橋渡しを担うことが私の役目と考えます。戦国時代の名将の武田信玄公の有名な言葉に「人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、仇は敵なり」とありますように、昔から人の結束こそが一番大切だと詠われています。長い不況、先の見えない日本の将来、逆風が吹いていると言われる薬業界など不安な要素も人の結

束こそがこれらを乗り切る鍵となるかと思えます。奇しくも今年の調剤報酬改定のキーワードも「モノから人へ」でした。ぐびろ会に於いても皆が結束し、お互いを助け合い強固な城となり石垣となり堀となり会員の皆様が豊かな人生を過ごされるサポートができればと考えています。

とはいえまだまだ世間知らず、経験不足の私にとりましては皆様のご支援とご協力が不可欠でございます。特に先輩方にはこれまでと変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、平成30年度の長崎支部ぐびろ会総会の報告をさせていただきます。総会では、平成29年度事業報告、決算報告、監査報告、役員改選、平成30年度事業計画案、予算案について全て承認をいただきました。また、来賓でお越しの佐々木 均同窓会長(昭53)よりご挨拶を賜り、長崎大学薬学部准教授の稲嶺先生(平18)にご講演頂きました。懇親会には現役の薬学部生も多く参加してくれたため、中嶋誠一会長体制下で行われる最後のぐびろ会総会は非常に盛り上がった会となりました。中嶋先生、これまでありがとうございました。これからも何卒ご自愛頂き、ぐびろ会を見守って下さいますようお願いいたします。



平成30年6月30日 於 ホテルニュー長崎

クラス会および近況だより

尾野村 治先生還暦祝賀同窓会

栗山 正巳 (特)

平成30年9月2日(日)に、医薬品合成化学研究室の卒業生をはじめとする同門の方々により、尾野村 治先生の還暦をお祝いする同窓会が開催されましたことをご報告申し上げます。会場となった長崎新聞文化ホールには50名近くが集まり、和やかな雰囲気のもとで尾野村先生を囲んで旧交を温める貴重な機会となりました。

開会においては、国立医薬品食品衛生研究所・有機化学部長の出水庸介先生にご挨拶を頂きました。続いて、長崎大学・准教授をお務めの真木俊英先生に乾杯のご挨拶と音頭を頂戴した後に歓談となり、20年前にご卒業の方から在学中の学生までが交流して会話を楽しましました。会の中程において在校生より還暦お祝いのお花と記念の品が贈られ、尾野村先生より人と人のつながりの大切さについて貴重なお話を頂戴しました。中締めのご挨拶では、日本マイクロバイオファーマ株式会社の神田泰寿様(院平11)より20年ほど前の研究室の様子を交えた興味深いお話を伺いました。最後に全員で記念撮影をした後も思い出や近況の話題がつかまる様子はなく、二次会に向かわれた方も多くいらしたようです。

日曜日の夕方からの開催ではありましたが遠方からも多数のご参加を頂いたおかげで大変活気あふれる還暦祝賀同窓会となり、尾野村先生を中心軸とする世代を超えた強い連帯感が確認されました。最後に参加者をご報告すると共に、ご多忙の中お越し頂いた皆様に心より感謝申し上げます。

卒業生：神田泰寿、船津有紀、白井公博、田中智章、池田隆史、牛嶋信人、George Ng'aNg'a Wanyoike、松村慎太郎、江藤義和、吉松博文、松村智子、原 夏希、竹市 翼、濱口典久、竹本祐樹、中野公裕、松本洋平、小野真平、中島 将、突田広太郎、斉藤和幸、大山達也、森本哲朗、本山直樹、花澤菜摘。

在校生：上野瑞貴、宮城 翼、菅野又 裕、児玉祐昌、石丸翔太、松尾佳澄、豊丸晴好、杉山達哉、木場広智、菊池直登、阿部裕介、西川 晶、片桐琴音、海江田雄哉、上原杏梨。

教員及び関係者：尾野村 治、真木俊英、出水庸介、濱本眞稔、山本耕介、栗山正巳(敬称略順不同)。





平成30年9月2日 於 長崎新聞文化ホール

田中 隆先生還暦祝賀会

齋藤 義紀 (特)

平成30年4月28日(土)に天然物化学研究室・田中 隆教授の還暦をお祝いする会が開催されました。「堅苦しくない、ざっくばらんな雰囲気になりたい」という田中先生のご意向もあり、思案橋の居酒屋「かこみ庵」を会場といたしました。田中先生が教授に昇任された平成24年以降の卒業生にご案内を差し上げましたところ、ゴールデンウィークの混雑期にもかかわらず、県内外から多数の卒業生にご参加いただきました。さらに、薬用植物学研究室の皆様や、はるばる中国から姜 志宏氏(博平6入、現澳門科技大學教授)も駆け付けてくださり、総勢37名の盛大な会となりました。参加者の皆様、ならびに企画・運営にお力添えを賜りました松尾洋介助教(平15)には、この場を借りて改めて御礼申し上げます。祝賀会では、まず田中先生のご略歴をご紹介しました。普

段はなかなかそのような機会がなく、初めて知ったという方も多くいらっしゃったようです。続いて田中先生からご挨拶を頂戴しました。卒業生、在学生それぞれに向けられたメッセージは、人のつながりを大切にされる田中先生らしい大変温かみのあるものでした。乾杯の後、田中先生のテーブルには卒業生が集まり、懐かしい思い出話を花を咲かせていました。また、卒業生の近況報告に田中先生が目を細めておられる様子も見られました。記念品贈呈では、田中先生のご研究にもちなんだ「記念刻印入りのウイスキーとグラス」を只熊郁也氏(平24)と山崎雅亮氏(平27)より、花束を北岡雅子氏(平27)より、それぞれ渡していただきました。あいにくご都合がつかずご欠席された方々からお寄せいただいたメッセージも冊子に取り纏め、小村紗世氏(平28)より



平成30年4月28日 於 かこみ庵

お贈りしました。還暦の定番である「赤いちゃんちゃんこ」も用意しました。照れた様子ながらも笑顔で身に付けてくださり、ちゃんちゃんこ姿の田中先生との記念撮影も行われて大いに盛り上がりました。最後に卒業生を代表して、辻田高明氏(平24)から感謝の言葉を述べていただきました。田中先生も辻田氏が学生だった頃を思い出しながらお聴きになったものと思われそうですが、メッセージが終わって一言「立派になったなあ・・・」と呟いたのが印象的でした。祝賀会の様子を取めた写真は研究室のホームページにアップロー

ドしておりますので、ぜひご覧になって下さい。

田中先生は現在も、薬学部の副学部長、教務委員長を務められるなど薬学教育にご尽力されています。また、多忙の最中、産・官との共同研究プロジェクトにも参画されるなど、研究の発展にも引き続き邁進しておられます。今後のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、70歳の古希、77歳の喜寿、80歳の傘寿のお祝いでもまた卒業生と和気藹々とした会ができるよう、ますますご健勝であられることを祈念いたします。

薬化学同門会

大庭 誠(特)・川邊 雅則(昭62)

平成30年6月23日(土)に薬化学同門会を開催した。開催の経緯は、薬化学第4代の田中正一教授(特)が教室を担当して10年で丁度10年になるので、卒業生を集めて簡単な講演会と同門会をしようと計画していたところ、川邊雅則氏(昭62)から連絡があり田中教授になってからの卒業生と小林五郎教授(特)・松田芳郎助教授(昭37)関係の卒業生の同門会を合同で開催しようということになった。

当日は、昼間に薬化学の若手関係者の講演会を行い、その中で薬化学卒業生や教員の研究内容の紹介を行った。演者としては、薬化学卒業生で現在、医薬品情報学研究室で准教授として活躍されている萩森政頼博士(平13)に「伝統ある複素環化合物を基盤として開発した亜鉛蛍光プローブによる細胞イメージング」の講演を、薬化学教室助教の上田篤志博士(特)に「配座自由度を制限したペプチドを有機分子触媒とする不斉反応」の講演を、博士課程を修了して大阪薬科大で助教を務めている

加藤巧馬博士(平26)に「 α , α -ジ置換アミノ酸を利用した膜透過性ペプチドへの応用について」の講演を行って貰った。薬学部の教員や卒業生から活発な質問がなされ、最近の卒業生は自分の行っていた研究内容の発展を知ることができたようである。

夕方からは、長崎駅近くのホテルセントヒル長崎にて、薬化学同門会を開いた。卒業生29名、在学生13名と現在のスタッフを合わせた計45名での開催となった。始めに川邊氏より開催経緯の説明があり、その後田中教授より挨拶が行われ、松田先生より挨拶と乾杯の発声が行われ会が始まった。同門会の途中では、昼間の講演者からの挨拶や卒業生有志からの挨拶がなされた。また、卒業生から在学生の紹介をして欲しいとの要望があり、在学生からも一言ずつ挨拶がなされた。卒業生と在学生は世代の違いを乗り越えて交流が出来たようであった。最後に、都知木 陸氏(昭56)の音頭により、参加者全員で三三七拍子が行われた。



平成30年6月23日 於 セントヒル長崎

「長薬昭和31年卒同期会有志の会」の報告 (平成29年10月10日～11日琵琶湖ホテルにて)

山口 剛志 (昭31)

私たちは卒業後10周年の初会合から集まること32回を数え、ことに平成2年以降毎年東京、大阪、福岡を順に回りながら会を重ねて来た。

32回目となる一昨年(平成28年)は、卒後60周年にあたり、会を長崎・稲佐山のホテルで行い、翌日母校である昭和町の旧校舎や入学当初の大村校舎を訪れて60年前を偲び、大村城下から島原半島を半周して2泊3日のバスの旅を堪能した。

昨年(平成29年)は、琵琶湖周航の歌の発表100周年に当たることを知り、琵琶湖畔のホテルに会場を設定し、翌日は外輪船ミシガン号(アメリカ西部開拓時代にミシシッピ川を上下した外輪船を模して造られた船)での琵琶湖周遊することを企画した。

琵琶湖の周辺へはすでに何回か集まっていたが、ほとんど1日のみの宴会で、翌日はfree timeとしていたので、今回は2日間を通じての有志の会を実施しようと試みた。

賛否両論はあったが、比較的元気であろう同級生15名に声をかけた。当初10名が参加予定だったが、最終的に8名の参加となった。参加者は下記の通りである。

参加・不参加の回答葉書の中で、残念ながら西村ヒサコさんの訃報を聞くことになった。7月2日亡くなられたことがご主人の手で書かれていた。ご冥福をお祈りする。

なお、一昨年特別参加をしてくれた毎原さんのお嬢さん2名を準会員とし、今回も参加してもらい、総員10名での61年目の会となった。今回の写真はこのお二人によるものである。

10月10日、JR大津駅に集合し、ホテルの送迎バスを利

用して、まず琵琶湖南岸に建つホテルに到着。とりあえずそれぞれ部屋割りに従って各部屋で落ち着いてもらうことにする。食事までの時間は自由に近辺の湖岸の散策等を楽しんでもらった。

18時30分、メインの宴会場であるホテル1階の食事処「おおみ」に集合した。まず西村さんのご冥福を祈って献杯し、1年ぶりの会食がはじまった。前年の60周年の会の思い出話、ここ1年間のそれぞれの越し方など2時間ほど歓談した。その後、幹事の部屋に集まり、宴会場ではできなかった校歌斉唱を私(山口)のつたないハーモニカの伴奏で歌い、これまでの思い出話などにひとしきり花を咲かせた。

翌11日も天候に恵まれ、あらかじめ予約していた琵琶湖周遊船「ミシガン号」に大津港から乗船し、琵琶湖周遊1時間30分を堪能した。東に近江平野に孤高を保ってそびえる近江富士を眺め、西には冬ともなるとスキー場としてにぎわう比良山系が連なるこれらの風景の中を船は進んだ。湖中の島、竹生島の靈巖寺は、西国霊場33番の札所として多くの参詣者が訪れる島である。船上からお参りしつつ、船は大津港に帰投した。

全員無事にそろってホテルを後にしJR大津駅から京都駅に向かい、駅前の食堂「円山」で昼食を共にし、次回は元気で会えることを約して散会した。

出席者

伊藤三千穂	立川 武資	毎原 政利
村上 元	山口 剛志	青木瑞恵(旧姓:稲田)
山本 陽子(旧姓:定松)	中尾 道子	

ほか準会員2名

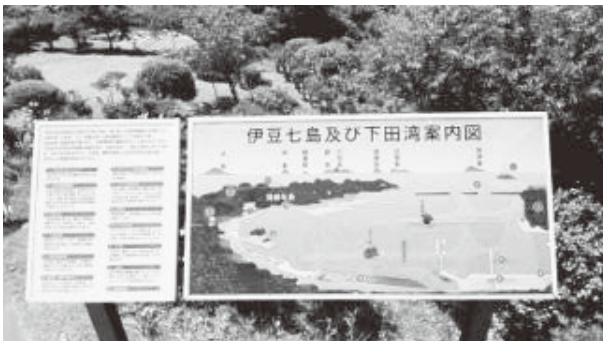


平成30年度参楽会報告

日高 喬子 (昭33)

平成8年から平成11年までの市川正孝氏、平成12年から平成17年までの西脇金一郎氏と二代続いて同期生より長葉同窓会長が選出され我々同期生としては、せめて同窓会総会に出席することが同期生としてのお勤めでしょうね。ということで、爾来、総会、同期会と続けての開催を実施してきています。今年も東京での総会に続いて東京在住の小島さんの企画からのお世話で、ミニ参楽会として総会出席者中、辻 孝氏を除く女性5名(千原美佐保氏、佐々木恵子氏、小島恵子氏、村木フクエ氏、日高喬子)で伊豆七島、下田湾を旅しました。

「あなた達それでも薬剤師？」とでも言われそうな話題ばかりではありましたが気持ちだけは一気に60年前に。昭和町時代の汚れた白衣姿での実験など思い出したことでした。来年の総会は大阪とのこと「じゃあ有馬温泉にでも行く？」などと鬼が笑いそうなことを話しながら



らミニ参楽会を後にしました。自身の健康、周りの健康なども含めて段々と厳しくなって参りますがこれからも参楽会での交流を精一杯続けていけたらと思っています。



三葉会 (昭和34年卒)

井上 萬里 (昭34)

2018年度三葉会は10月13日～14日「関門海峡絶景の宿」と称する、国民宿舎海峡ビューしものせきにて11名が参集致しました。1959卒ですから卒後59年となります。

当初、参加希望者は19名、4月のホテル予約時には16名でしたが、本人、家族の体調不良等高齢となりますと致し方無い事です。

6時30分～9時まで河豚(福)の刺身を囲んでの宴会です。11名ですので近しく、和気藹々、欠席者の近況を伝え合い、仕事、健康法、趣味など、歓談のひとときを過ごしました。

宴会の後は大部屋に集まり、お茶の時間となります。お土産に持ち寄った各地の銘菓を人数分、手際よく袋に仕分ける係りは、何時の頃からか決っています。それが家族へのお土産になるのも楽しみの一つです。ここで、

来年どうするかという話になりました。一瞬、沈黙の時間が流れました。1年先の事は解らない年齢であるという事です。しかし元気であれば全員出席するという約束で、懐かしい長崎での開催を決定しました。

二次会は真夜中まで続きました。

翌14日晴天、9時小型観光バスにて下関観光です。先ず長府庭園で暫く散策致しました。ここは長府毛利藩家老屋敷跡で、池を中心に書院、茶室、あずまやが保たれ廻遊式庭園です。

続いて火の山(268M)山頂にて関門海峡を一望。壇ノ浦合戦で敗れた平清盛の孫の安徳天皇をお奉りした赤間神宮に参拝致しました。境内は大混雑。下関埠頭に中国旅客船が2艘入港し団体客の観光バスで道路が渋滞し我々の小型バスは動けなくなりました。



唐戸市場などの見学は断念して、海峡添いの「みもすそ川公園」を散策。関門トンネルの人道口に入ったり、壇ノ浦古戦場や、幕末攘夷戦で外国船を砲撃した砲台跡を見ながら、公園端にある関門海峡一番地と称する「平家茶屋」にて昼食。2時間程歓談しタクシーで下関駅に移動。2時前に来年の長崎での再会を誓い解散致しました。

下関は古くから内海航路の港町として発展し、遠洋漁業の基地であり、古くは源平合戦、平家終焉の地であり幕末維新の地です。そして今年には明治維新後150年ということですから。本州最西端ながら歴史上重要な地であることを認識致しました。



平成30年10月13日 於 国民宿舎 海峡ビューしものせき

長薬35年卒クラス会（東京）

井上 治（昭35）

長薬昭和35年（1960年）卒のクラス会を、11名の参加者（男子4名、女子7名）を得て平成30年6月1日（金）と2日（土）に行いました。1日目は、ホテル雅叙園東京にある百段階段を見学し、雅叙園創立の歴史と文化財としての建物と絵画などの装飾品に触れて古き良き東京を満喫できました。その後、同園内の中国料理「旬遊紀」で会食。2日目は、「はとバス」に乗り、東京スカイツリーと浅草観音・仲見世の見物で無事終えました。2日間とも天気恵まれ、少しタイトでしたが最後まで皆さん落伍せず楽しみ、再会を願い丸の内解散しました。参加した人達は80歳とは思えない体調で、連れ合いや家族の支えがある人だと思えました。この調子だと2020年の東京オリンピック、さらに88歳（米寿）にもクラス会が開催出来るのではと勇気付けられました。

この会の計画は、井上が昨年11月に長崎県川棚中学傘寿記念同窓会に出席した後に、長崎市で木下、桑山両氏

と会食した際に発案されて、木下、桑山、中尾、松尾、田川、井上の6人を世話人として進めてきました。その後、消息確認を木下が、会場、宿泊、観光を中尾、松尾、井上が担当して進めました。

どの程度の参加者がいるか予測が難しく、10名程度の参加であればよいのではと思いましたが、最終的には11名となり世話人としても喜んでます。桑山、中尾、田川の各氏は世話人として当初張り切っていましたが、家庭の事情や本人の体調不良のために参加できなくなったのは残念でなりません。

同窓会名簿を基に、住所不明（3名）および物故者（10名）を除き、27名にクラス会の案内を出しました。その結果、出席者は11名、欠席者は11名（80歳ともなると家庭の事情や体の不調の者が多くなってきました）、返事なしが5名でした。

最後に次の事柄を付け加えてクラス会の感想文とします。

- 1) 人生100歳時代を迎え、二次予防では今までは「一病息災」で、今の病気を増やさないとされていますが、最近では「数病息災」で、病気になったことのプラス面を捉えて病気と共存して健康寿命維持に努めることが大切であるとされています。
- 2) シニアに必要なのは「きょういく（教育）」・・・今日行くところがある。
「きょうよう（教養）」があることだと云われて、出来るだけ家に引き込まず、濡れ落ち葉にならるように

出歩くことです。

- 3) 「散る桜 残る桜も 散る桜」（良寛）の詩のように人生には、三つの坂があります。それは「上り坂」と「下り坂」、もうひとつは「まさか」です。80歳代は「下り坂」と「まさか」の坂が合併しますので、心身に過信せずの「多病息災」で健康寿命維持に努め、かつ「Keep on Going」、自分ファーストで残りの時間を大切にしていきたいと祈念しています。



平成30年6月1日 於 ホテル雅叙園「旬遊紀」

傘寿記念クラス会

栗屋 順子（昭36）

傘寿を記念して、おそらく最後になるであろうクラス会は長崎で、と再会を約して早くも3年の月日が流れた。10月22、23両日初めは20人を超える予定であったのが、高齢或いは健康、所用と様々な理由で、最後まで残って梁山泊ならぬ稲佐山中腹に参集したのは14名であった。それでも42名中1/3も集まったことを良しとして大変和やかで楽しい会となったことは言うまでもない！

長崎港を一望することのできるガーデンテラス長崎ホテルを一夜の宿に選び、ちょっぴりゴージャスな気分を味わいながら美しい夜景に心を奪われ、美味しいワインとディナーを頂き至福の時はあっという間に過ぎて行った。

翌日はグラバー園散策を皮切りに世界遺産巡りに出発した。と言っても80歳の足では多くを望むのは無理というもの。グラバー園は斜行エレベーターなる超楽チンの乗り物で、あっという間に頂上。でも杖という伴侶のあ



る人にとっては難行苦行の行程となったことは今回企画した者にとっても反省点となる。グラバー園巡りの途中から雨になり、それでも次の「潜伏キリシタン関連遺産」の筆頭、大浦天主堂を訪ねた。ここは昔は誰でも何時でもタダで入れたのになどと文句を言いながら、説明のナレーションを聞いて頷いたり納得したり改めて理解出来、収穫もあったようである。

腹ペコの胃袋を満たしたのは中華料理店四海樓のちゃんぽん、皿うどん。紹興酒でほんのり温まり、三々五々荷物を預けた長崎駅へと向かい流れ解散となった。

最後にお定まりの、嗚呼、長崎は今日も雨だった♪で決められたことは天の配剤かもしれない。

これで本当の最後の最後。人生の節目で学年同窓会を企画なさる時は是非世界遺産「長崎と天草地方のキリシタン関連遺産」を候補に挙げて頂き長崎を訪ねて頂きたいと切に望むものである。



平成30年10月23日 於 グラバー園

昭和37年卒同期会 (平成30年5月14～15日)

馬場 純好 (昭37)

平成30年度の同期会は神戸を中心に開催しました。同期生38名の方にご案内しましたが、ご本人又は配偶者の体調不良並びに諸事情により結局出席者は6名に留まりました。

初日は、関西の奥座敷である有馬温泉の兵衛向陽閣に宿泊しました。ここは太閤秀吉から「兵衛」の名を賜り愛された創業700年以上の歴史と伝統が宿る老舗旅館です。日本三古湯に数えられる名湯をたっぷり湛えた広々とした湯船に浸かり、日常の疲れを癒すことができました。宴会では池田氏から差し入れの薩摩焼酎に酔いしれるうちに、学生時代のエピソードや同期生の話題等で盛り上がりました。

翌日は、チャーターしたタクシーと高井氏のマイカーに分乗し、六甲ガーデンテラスに向かいました。ここは明石海峡から大阪平野、関西国際空港まで広がる大パノ

ラマの眺望が観られる施設です。しかし、残念ながら当日は春霞により視界が悪いため、期待していた展望台の入場は断念しました。

次に訪れたのは、神戸酒心館で1751年に清酒の醸造を始めた蔵元です。ここで醸造された純米吟醸酒「福寿」がノーベル賞受賞者の晩餐会に提供されました。世界最優秀ソムリエコンクールに優勝し、芳醇でフランス料理にも相性が良いと言われております。晩餐会に提供されるようになったのはスウェーデンの取引先が主催者側に薦めてくれたのがきっかけで、日本人が受賞した際の定番になったようです。ビデオルームで神戸酒心館の歴史、清酒の種類、醸造方法等の説明後、近代的に整備された蔵を見学しました。現在はコンピュータ管理の下で年間を通して醸造されるそうです。試飲コーナーでは、大吟醸酒、純米吟醸酒、純米酒等を試飲し、清酒の繊細

な味わいを再認識しました。

神戸居留地で1947年創業の北京料理店第一楼で昼食をとりながら、年々出席者が減少している同期会の今後について話し合いました結果、学年理事の青木氏に意見集約をお願いすることにして散会しました。

後日、青木氏からメールアドレスが判明している方にアンケートをとっていただいた結果、定例の毎年開催は本年度で終了し、今後は有志からの提案により検討することになりました。

出席者（順不同）

高井 啓二、野村 修、寺尾（秀坂）桂子、
福島 祐作、本田 功、馬場 純好



平成30年5月14日 於 有馬温泉 兵衛向陽閣

昭和38年卒同期会開催報告

幹事一同（昭38）

平成29年9月14日福岡市で開催しました。平成27年広島開催時に次回は嬉野で会いましょうと決まっていたが、事情により福岡市に変更しました。

同期では40名卒業し50数年経過の間に5名の方が亡くなられています。今回は16名が参加しました。今までは観光との組み合わせで企画していましたが、今回は料理を楽しむことで計画しました。

年齢を重ねるにつれ食事と言ってもそれほど食べることは出来ないのに、という心配がありました。時間をかけて博多の「食」を楽しむ事が出来ました。特に烏賊等の新鮮な食材を石焼きで存分に食べる事が出来て良かったと思っています。石焼ではお店の方が数人付き切りでお世話して頂いたことも、美味しかった要因と考えています。

当日は博多の3大祭りの一つであります放生会の期間中でもありました。料理屋の女将さんのお計らいで、筥崎宮の縁起物「西島氏の絵入りしゃもじ」を全員頂く事が出来ました。

同窓会の効用（薬効）というのでしょうか、懐かしい顔を見た時からタイムスリップしたように若返った感覚でお喋りしたりして楽しい時間を過ごすことが出来ました。同窓会には不思議な作用がありそうだなあと感じています。

今回は場所と時間帯も考慮し、日帰り可能ということから3名の方が日帰りで参加することが出来ました。

次回の開催予定地は、長崎、福岡が候補に挙がっています。

今回の出席者順不同

女性：小隈・梶村（伊藤）・久保（今井）・小波蔵（知念）・
篠原（楠原）・城（平方）・高橋（武居）・鰐石（藤野）
男性：青木・井口・大坪・小倉（夫人同）・左利・高橋・
土田・渡部



平成29年9月14日 於 福岡市

昭和40年卒同窓会 in 江の島

福島 和貴 (昭40)

平成30年5月18、19日の両日、神奈川県藤沢市の江の島で同窓会を開催した。前回の長崎に次ぐ3年振りの開催となった。

関東エリアには多くの候補地が考えられたが、江の島を再度選定した。それは2011年の同窓会を関東エリアで開催することが決定され、大田君を中心とする幹事さん達が、場所、日時を決め、あとは開催を待つだけとなっていた。江の島はその際選定された開催地であった。そのような最中2011年3月11日に発生したのがあの東日本大震災である。全く予期しなかったこの出来事により同窓会は中止を余儀なくされたが、詳細は大田君により本誌51号に報告されている。

今回の開催に当たっては、中止となった2011年と同じ条件で行うことは、先の幹事さん達の思いも加わる同窓会になるのではとの思いが巡り、会場も時期も当時と同じ、江の島「恵比壽屋」、5月開催とした。会場の下見には2011年にも現地を訪れた中村さんに再度同行を願った。江の島は鎌倉時代から賑わいを見せた行楽地であることは知られているが、また旅館「恵比壽屋」も凡そ400年の歴史を有し、伊藤博文らの著名人が愛した宿との説明を受けた。

さて、今回の参加者は男性5名、女性13名の18名で、北海道、九州、山口、島根などの遠路からも参加があり、大いに盛り上げてもらった。福岡在住の金子さんには参加に向け開催日ギリギリまで体調との相談が続けられたが、やはり無理との結論でキャンセルとなったが、そこには懐かしい顔に会いたいとの思いが言葉の端々に感じられた。他にも同様の理由で参加を見送った仲間がいたのは残念である。

会は黙祷からスタートした。幹事の一人として協力してもらっていた那須さんには昨年2017年12月末に急性心不全で他界との訃報が突然舞い込み耳を疑った。彼女を含め他界された仲間の冥福を祈った。

次いで乾杯に移り、最遠路の佐賀からの参加者であった岩さんに乾杯の発声をお願いした。その後は全員による近況報告へと移った。現役の薬局勤務、野菜作り、俳句・和歌詠み、社交ダンス、ゴルフ、テニス、外国旅行、太極拳、気功、ボランティア活動、塾講師また孫・家族・伴侶の話題など多様な生活・活動ぶりが披露され、それぞれの報告に対するコメントの応酬が飛び交い大きな笑いの渦が広がった。皆こんなにお喋りが好きだったのかと思いつつもその勢いには進行も抗しがたく、まだ最後の報告者が終わっていないのに会場の使用時間オーバーのイエローカードが出され、使用時間延長をお願いする事態に陥った。

何とか一次会を終わらせた後は会場内の別室に移動した。ここではお喋りは更にヒートアップ、参加者が地元から持参されたお土産の差し入れは手付かず状態に置かれたほどだ。話題は専ら学生時代、長崎での生活で占められ、学生実習、配属研究室などでの思い出等がマグマのように噴出し、高揚するボルテージに近接の客室の気配を気にする時間となった。卒後半世紀以上を経てもなおこのように語り合う時間を与えた大学4年間は、特別な意義をもった人生のひと時であったに違いない。

今回の印象に残った言葉の一つは後期高齢者としての立場である。脊柱管狭窄症、骨折、白内障、リハビリ、ウイルス疾患、脳梗塞、くも膜下出血、介護、認知症など自身を含めた身近な人達の体験談に、大きく頷く顔は

真剣であった。薬学に携わってきた者として、これら現実への対応や見識について意見を交換する時間を持てなかったのは少し心残りであった。

私は鎌倉が大好きで季節を変え、数え切れないほど訪れた。初夏の鎌倉・湘南散策を加えた旅程を組んでの参加者もいた。山口君には江の島は特別な思い出の場所であることが披露された。若かりし時この地で開催された全日本のヨットレースで上位入賞したことを話すドヤ顔はとても素敵であった。ご存知の通り江の島は2020年東京オリンピックではセーリング競技会場に決定され準備が進められている。

2日目は全員一緒に朝食を取った後、江の島・鎌倉散策、東京などそれぞれの時間を楽しむこととし解散した。

再挑戦の同窓会in江の島であったが楽しい時間を共有でき、無事に終えることが出来たことを仲間に感謝したい。

諸般の事情を考慮した時、残念ではあるが定期的な全体としての同窓会は今回をもって最後とすることとなった。しかし今後も、誰からであれ、動機が何であれ、何時であれ発案し合い、出会い大いに笑おうではないかの江の島宣言が拍手で迎えられた。



平成30年5月8日 於 江の島「恵比壽屋」

長薬昭和41年卒クラス会を開催

伊豫屋 偉夫（昭41）

今年の昭和41年卒のクラス会は、本部の総会が東京のアルカディア市ヶ谷で開催されるのにあわせ、関東在住の中村君に調整をお願いし、平成30年6月2日～3日東京で開催しました。

本部の総会には関東から中村君、長崎県から井関さん、平山君、松本君、宮本君と伊豫屋の6名が出席し、学年を超えて懇親を深めることができました。

総会後のミニクラス会は、アルカディア市ヶ谷2階のレストランで開催しました。井関さんは次の予定が入っているとのことで帰られましたが、残りの5名が2階に降りていくと、ロビーの椅子に早崎君と三方君が座って談笑中で、合流して7名でミニクラス会を開催しました。三方君には久しぶりに会った人が多く、三方君を囲んで大いに話が盛り上がりました。三方君は翌日予定が入っているとのことで、数時間の再会となりました。

翌日は、晴天に恵まれ、集合場所のJR市ヶ谷駅には



総会懇親会

山下さん、河本さん、大森さん、小野君の関東在住の面々が集まっており、久しぶりの再会に話が弾んでいました。10名全員集合を確認し電車を乗り継いで葛飾柴又まで行き、寅さんの銅像を触り、寅さんになったつもりで写真を撮り合いました。帝釈天参道の「とらや」で名物の「草だんご」を買って、柴又帝釈天にお参りをしたの



早崎君と三方君

ち、江戸川の堤防に登って汗をぬぐい「草だんご」を頬張って一休みし、「矢切の渡し」を眺めて柴又駅に戻り、電車で昼食会場がある二重橋前駅まで行きました。

二重橋に近い土佐料理の「祢保希（ネボケ）丸の内店」には、黒田さんがすでに到着していて、11名で「カツオのたたき」など土佐料理の昼食を食べながら、各自近況報告をしてお互いの元気を確認しあいました。

昼食後は、すぐ近くにある明治生命館を見学し、戦後の対日理事会の会場などを目の当たりにし日本の歴史を再確認しました。その後、新しくきれいになった東京駅から皇居へ延びる行幸通りにて記念写真を撮り、次回総会が開催される近畿での再会を楽しみに解散しました。



柴又駅前で寅さんと



東京駅から皇居へ延びる行幸通り

最近の長崎と私

井上 一顕（昭42）

昭和42年の卒業生の中で旧長崎市内に住んでいるのは私ただ一人です。みなさんは最近の長崎についてご存じないかと思い、長崎の現状を少しばかり記してみます。

長崎はここ20年くらいの間にずいぶん変化しています。市内の建物などでいいますと、まず県庁と県警が長

崎駅のすぐそばの港に面したところ（旧魚市跡）に建てられました。駅も新幹線の工事が進んでいます。それに伴い、長崎駅も少し西側に移動するようです。また、この駅の西側（浦上川と駅の間）には大型会議場などを含むホテル（ヒルトンホテル）が建設予定になっています。

また、そのすぐ北側にある三菱重工幸町工場の跡地にはジャパネットが出資するサッカー場やホテルの建設も予定されております。現在、駅の周辺には大型ショッピングモールが2か所あります。浜の町から銅座にかけて繁華街や飲み屋街などがあり人が集まる所でしたが、将来は駅の付近が賑やかになるかもしれません。

観光の分野では、「明治日本の産業革命遺産」(軍艦島やグラバー邸など)と「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」(大浦天主堂、原城跡、五島の教会群など)の二つの世界遺産に加え、長崎の夜景が新世界3大夜景に登録されました。これらのことから長崎を訪れる観光客がとても多くなりホテルが取りにくい状態です。しかも、最近では大型客船(5000人~7000人収容)が毎日のごとく松が枝岸壁に来て、街は外国人であふれています。観光船の来港数は全国で2位だそうです。

みなさんご存知のように、長崎は観光のメッカで、原爆、歴史、キリスト教、お祭り、自然(国立公園が二つ)、世界遺産などの見るべきところが多々あります。ご存知でしょうが、それらを少し紹介してみます。

原爆資料館は従来の建物があつた場所の地下に再建され、その後原爆死没者追悼平和祈念館が併設されました。原爆死没者追悼平和祈念館には原爆で被爆した人の名簿や写真や記録などが保存されており原爆被爆者の私も死後はここに登録されます。また、原爆資料館は平成30年10月に「旅好きが選ぶ博物館」で日本一になりました。

歴史に関しては、ご存知のようにたくさんの方が残されております。最近では、出島がほぼ完成し対岸と出島を結ぶ出島表門橋も完成し、秋篠宮ご夫妻やオランダの王女が来崎して盛大な完成式典が執り行われました。シーボルトが西洋の医術を教えた場所(鳴滝)には立派なシーボルト記念館が建てられております。

キリスト教に関しては、前述した世界遺産だけでなく、多くのキリスト教関連遺産があります。私がおすすめしたいところは外海地区の教会と遠藤周作記念館です。ここは、江戸時代の終わり頃、フランスからドロ神父が赴任し、隠れキリシタンだったこの地区にキリスト教はもちろん、いろんな西洋の文化を伝え、「ドロさま」とこの地区の人たちに慕われています。キリスト教には枢機卿といってバチカンの国会議員みたいな人たちがいますが、いままでに日本人は5~6人しかありませんでしたが、なんとこの外海地区の出身者がそのうち2人もいます。(今年になって上五島出身の神父さんが1人選ばれました。)また、この外海地区には海を見下ろす高台に遠藤周作記念館があります。彼の作品の「沈黙」の舞台になったところがここだったので死後ここに建てられました。彼の多くの資料がここに展示されております。また、みなさんは五島列島にいかれたことがあるでしょうか。先日私は上五島に行ってきました。人口約2万人のこの島に教会が29もありました。こじんまりとし

た教会ばかりですが、地域の人たちに守られ、暖かい気持ちにさせてもらいました。またこの海はとても美しく、私は世界中の多くの海を見てきましたが、どの国の海にも負けないくらいのものでした。一度は五島を訪れることをおすすめします。

長崎のお祭りは、春は「旗揚げ」、夏は「ペーロン」「精霊船」、秋は「おくんち」、冬は「ランタン祭り」など一年中お祭りばかりです。花火も何かにつけて打ち上げられ、年に5~6回はあります。長崎人はむかしから「墓」「坂」「ばか(お祭り好きのこと)」と言われるくらいお祭りが多い所です。「墓」は他の地域の墓よりも大きいということ。私の家の墓でも10坪ほどあります。私の妹の嫁ぎ先の墓は70坪もあります。「坂」はご存知のように坂が異常に多いということです。また、冬の「ランタン祭り」は昔にはなかった祭りで、華僑の人たちが中心になって始めた祭りで、町中がランタンで彩られるとてもエキゾチックなお祭りです。一度はご覧になれることをお勧めします。「おくんち」では昔はなかった「ココロデショ」が最近では「龍踊り」を抜いて一番人気です。

お祭りとは関係ありませんが、人気の場所はハウステンボスと伊王島です。ハウステンボスは倒産寸前の所をHISの澤田社長が見事に再生させ、多くの人で賑わっています。伊王島も、寂れたこの島に温泉施設などを作り多くの人を呼び込んでいます。伊王島と香焼を繋ぐ橋も完成しており車で行けるようになりました。

長崎へのアクセスも便利になりました。高速道路から直接長崎市内に入ることができるようになりました。卒業後ほとんど長崎に来ていない人もおられるようですので、そのような人は是非長崎に来られることをお勧めします。その節には私に連絡していただければご案内しますので遠慮なくお申し出ください。(私の電話番号08052035067)

ところで、最近何人かの同級生が病に倒れ、厳しい生活を強いられておられるようですが、私も今年は3回目の癌に罹患し、死についてずいぶん考えさせられました。しかし、幸いなことにこの3回の癌はすべてが早期発見だったため死にいたるようなことにはなりません。自分の体の少しの変調を敏感に感じ、すぐに医者に行って調べてもらったことが良かったようです。もちろん、3年来親しくしているお医者さんに巡り会えたのも癌を早く発見出来たようです。みなさんも、体調の微妙な変化を敏感に感じとって病にかからないようにされること願っております。

近いうちに長崎で同級会をできたらいいなと思っております。

(とりとめもない文章になりましたが、ご容赦を)

昭和45年卒長崎での同窓会と近況報告

轟木 幸子（昭45）

平成30年6月9日（土）に同窓会を開催しました。今回は少し豪華にしようと、有名な丸山の料亭「花月」を会場に選びました。昨年の古稀の記念同窓会で次回は九州以外ではとのご提案もありましたが、急遽長崎で開催することとなりました。そのせいかいつもより少ない16名の参加者でした。午後5時ごろから三々五々会場に集まり、龍馬ゆかりの品々を展示する資料館や龍馬がつけた刀傷のあるという床柱などを見学し、宴会が6時に始まりました。日本と中国・南蛮文化が融合した長崎の伝統料理の卓袱料理を味わいながらの近況報告は、いろいろな趣味の話題で盛り上がりました。2次会はホテルニュー長崎へ場所を変え、話題は尽きませんでした。明日の予定もありお開きに。

翌日は130年ぶりに表門橋が架橋された「出島」を、係の人に詳しく説明してもらいながら見学。出島の近くにあった県庁が長崎駅の近くに移転したり、今年6月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として島々の教会群が世界文化遺産に登録されてから、街の様子が変わりつつあります。

ところで、私が最近熱中しだした趣味のトランプゲーム（コントラクトブリッジ）についてご紹介したいと思います。耳慣れない方も多いでしょうが、今年のアジア競技大会で73歳の最年長者が出場されたという記事をテレビや新聞で見られた方もいらっしゃるかもしれません。これは4人がテーブルを囲み、2人対2人のペアで戦う「ダブルス」のゲームです。勝つのも負けるのもパートナーと一緒に。パートナーと心を合わせ、対戦相手のペアと知恵を競います。シンプルなゲームですが、なかなか難しいもので奥が深いゲームです。初めて会った人同士でもカード（トランプ）があれば言葉や国境を超えてつながることができる、それがコントラクトブリッジの魅力であり、世界中で親しまれている最大の理由です。私は3年くらい前に友人の紹介で始めましたが、その魅力に嵌りとても楽しく充実した時間を過ごしています。実際のゲームでは、記憶力の減退を痛切に感じながら苦戦の連続です。

今回、古くよりシーボルトの関係で友好都市であったオランダのライデン市と長崎が姉妹都市になりました。今年の9月に長崎市長・公式訪問団と日程を合わせてライデン市を訪問し、現地のIdefixというブリッジクラブの例会に参加してブリッジを楽しんできました。



例会の写真



シーボルト記念館

日本全国で体験教室や講習会が開催されていますので、興味のある方は始めてみませんか。頭の体操にはお勧めのものです。マクドナルドのある国よりコントラクトブリッジをする国のほうが多いらしく、どの国に行っても楽しめるそうです。

最後に次回の同窓会（幹事：田部・鈴木・山下・有福）は既に案内状をお送りしていますが、再度確認して是非出席してください。お会いするのを楽しみにしています。

日時：2019年5月15日（水曜日）午後6時より

場所：ホテル日航成田



平成30年6月9日 於 花月

後 列	中 村	高 木	和 泉	藤 原	若 松	島 田	小 林	小 林	加 嶋	森 崎
前 列	手 島		轟 木	和 泉		田 中		西 光		飯 田

43入学47卒業同窓会イン京都

森 賢造 (昭47)

前回の大分県日田市での同窓会で次回は京都と決まりました。ところが昨今の京都はインバウンドの影響と修学旅行生で春や秋のハイシーズンには、一年前からすでにいっぱい、かつ料金も高いので会場選びに苦労しました。結果、元藤原良房の別邸で小川治兵衛の作庭で知られる、私立学校共済京都宿泊所の白河院を見つけました。

桜の季節には少し早い3月10日に男女15名ずつ30人が集合しました。明るいうちに自慢のお庭で記念撮影を済まして、武田五一京都帝大教授設計による白河の間で宴会をスタートさせました。

宴会冒頭、前回の同窓会の後に亡くなった淀川君に黙祷を捧げました。古希を迎える年齢になり、今回も体調不良で参加できなかった者が数名出ました。今回は特別な企画をせずに、近況報告や、この年になると関心のある年金や孫、健康の話で盛り上がりました。二次会は宴会場から部屋を変えて遅くまで話題が尽きませんでした。そんな話の中、学部時代に医学部の要請で女性だけ

血液検査を受けて、その結果が学生課から知らされたという話が飛び出し、その記憶のある人ない人でもまた盛り上がりました。

翌日は朝から自由行動でそれぞれ思い思いに見物した後、筆者の店「森の小枝」で茶懐石料理の仕出し屋で有名な三友居からお弁当を取り、各自食事の後流れ解散となりました。

卒業後不定期に開催してきた同窓会ですが、2012年以降は別府、長崎、神戸、日田、そして今回の京都とほぼ1年半おきに開催しています。43年入学の同期生の中からもうすでに11名が鬼籍に名を連ねています。学園紛争まっただ中の学生生活を一緒に過ごした仲間とできるだけ長く付き合っていきたいと思っています。次回は長崎の猪平君が幹事を引き受けてくれました。

追伸、平成最後のココロデショで盛り上がったおくんちの夜に、次回は来年11月9日に長崎の紅葉亭でと計画を立てました。6年ぶりの長崎開催です。是非多くの参加で盛り上がりましょう。



平成30年3月10日 於 京都 白河院

写真後列：金子，小寺，木村，森，橋本，猪平，小池，肥塚，松田
 中列：大間，友永，松村，住吉谷，高司，加藤，小林，宮本，山田，谷口，間瀬田
 前列：岸，安田，岡本，芳賀，池田，簗田，宮垣，山内，中田，南條

「長薬44年入学/48年卒業同窓会」初めて広島で開催

津村 恵子（昭48）

2015年秋の東京での同期会から、早くも3年がたちました。本来は、昨年開催予定だったものが、一年遅れとなってしまいましたが、広島での開催に向けて、今年の年明けから幹事4名が集まりました。

折角、海を臨む広島での初めての開催ということで、この美しい瀬戸内海を同級生達に見てもらいたいと、懇親会・二次会・宿泊は広島湾を見渡すホテルで。そして、翌日の観光は、世界遺産の宮島でと纏まりました。

最近、毎年のように異常気象で、10月の末にまで台風の襲来に遭うこともあり、お天気が唯一の心配の種でした。しかし幸いなことに（皆の日頃の行いがよかったのか）、当日は好天に恵まれ、懇親会では24名が美しい広島の夜景を眺めながら歓談。そして翌朝は、秋の陽に輝く海と島を堪能していただけたと思います。翌日は参加者14名でホテルから直に高速船で宮島に渡り、巖島神社の参拝など、（参加者のある方によると「遠足のような」）楽しいひと時を過ごすことができました。

唯一、心の痛む出来事は、前回の東京には、元気な顔を見せていた同級生が、2名も帰らぬ人となっていたことです。あと2年で全員が70代を迎える我々は、そういう年代に突入しているのだと、胸の奥がジーンとする想いでした。

5年後には、私達も卒後50年を迎えます。次の集まりは、そのひとつ前の会となりそうですが、九州北部在住の方々が、快く開催を引き受けてくださいました。どんな会になるのか、今から楽しみです。次回に向けて、「必ず元気で、また会いましょうね！」と励ましあって、広島会を終えました。

これまで、あまり顔を見せてもらおう事のなかった方々にも声を掛け合って、一人でも多くのクラスメートと再会を果たしたいものです。

幹事 菅，津村，田口，松井

参加者（敬称略）：辻村（片山）啓子，出口（久万）順子，平田（許斐）美恵子，菅（佐伯）妙子，埋金（坂本）年代，小松（田中）則江，野本（中西）鈴枝，岡（長石）富美子，仲子（林）くみ子，金子（藤村）洋子，中山（山縣）都，中川（山上）智子，津村（山路）恵子，山口（力武）美好，相川康博，井手 清，江川清文，金子伸夫，渡部（木原）クリ子，田口 哲，松井（樹野）由子，本松（寺田）美緒，森重徹洋，多田（山本）和子



平成30年10月27日 於 グランドプリンスホテル広島

2018年 昭和50年卒同窓会開催報告

松田 米人 (昭50)

平成30年2月24日(土)昭和50年卒の同窓会を開催しましたので報告いたします。

前回平成28年9月の隅田川・屋形船での同窓会で長崎での開催が決まりました。

前回の開催から約1年半という早めの同窓会は、ランタンフェスティバルに合わせてという希望が多数あり期日を決定しました。人出の多いランタンの時期とのことで幹事の橋間ご夫妻を中心に長崎在住の同窓生で早い時期に会場・宿泊施設などを話し合いました。

懇親会の前にランタンさるくを、翌日の午前中に軍艦島見学とその後の出島での昼食会を計画しました。

ランタンさるくは当日16時30分集合で36名参加で、さるくガイドさんによる、唐人屋敷の歴史を聞きながら、4つのお堂を巡り赤い蠟燭をお供えてそれぞれお願いをしました。小さなお堂には、たくさんの蠟燭が灯されて新しく建てる場所を探すのが大変でした。神様も大忙しだったと思います。古い石畳の坂道沿いに中国の神様をおまつりしたこじんまりした門構えのお堂が点在して、往時の賑わいを思わせる界隈でした。唐人屋敷から湊公園に着いた頃にはランタンの灯りが鮮やかに輝く頃になり、人出も最高潮で隣にいた人があつという間に人波に消えてしまう程でした。赤・黄・ピンクなどに彩られた幾つものオブジェや川面に映るランタンの美しさを満喫しました。

懇親会は中華街に近いホテルJALシティ長崎の桃苑で19時から行われました。北は北海道から南は沖縄まで各地から47名の参加がありました。今回初めて村本(磯部)尚子さん、沖山(玉城)尚美さんが参加され懐かしかったです。

集合写真撮影の後、幹事の橋間氏による前期高齢者の仲間入りした同級生へのユーモア溢れるいたわりと励ましの挨拶があり、恒例の校歌斉唱、乾杯と進みました。中華料理をいただきながら近況報告や昔話に楽しく時間を私語した後、今回は時間の都合で前回参加出来なかった人に近況報告をしていただきました。話す人が限定されいつもよりさらに身を入れて聞くことが出来たのではないかと思います。

二次会も殆どの人が席を移しビクトリア・イン長崎のバンテアンで落ち着いた雰囲気の中、時間の許す限り語り合いました。

翌日25日は8時30分集合。昨日の疲れを感じさせない元気な40名が長崎港ターミナルに集合しました。ご家族で参加された方もありました。あいにく小雨の降る天候でしたが、波もなく船も大きく揺れる事もなく無事に上陸出来ました。最盛期には立ち並ぶ高層住宅に多くの人々が生活し日本の近代化を支え、エネルギー革命後に無人島になり3年前に世界遺産に登録されました。現在は島の数奇な運命で多くの見学者を集めているようです。下船後は、出島まで徒歩で移動し、昨年完成した出島表門橋を渡り入場し、出島内外倶楽部での昼食でしたが、西さんと中島さんがあらかじめ食事の予約を取りまとめていただき、トルコライスなど多彩な料理をいただきました。

この日も長崎泊の人もおりそれぞれに解散となりました。いろいろな場面で話したり、歩いたり、テーブルを囲んだりすることが出来お互いの距離がより近づいた二日間ではなかったかと思います。

次回は長田氏に代表幹事をお願いし2020年秋に京都での開催が決まりお互い元気で再会を約束しました。



平成30年2月24日 於 JALシティ長崎

S51年卒同窓会 於 長崎

植松 律子 (昭51)

11月17日(土) ホテルニュー長崎にて、昭和51年(一部52年)卒同窓会を開催しました。出席者32名。直前まで入院し、体調万全でない中参加してくれた平〇君。広島から一人で車を運転し、重たいもみじ饅頭をお土産に持って来てくれた加〇さん。昼に法事を済ませ、その後同窓会に駆けつけてくれた〇さん。(一文字の為、省略できず。)他、皆さん忙しい中でのご参加お疲れさまでした。

会を始める前に集合写真を撮影。ホテルニュー長崎カメラマンの「ハイ、手はこちら。足の向きはこちら」など今までにない本格的な撮影でしたが、出来上がりは流

石。みんなにこやかな顔で映っていました。その後、幹事6名を代表し植松が挨拶。長老原田さんの乾杯で始まり、あちらこちらで賑やかな声が上がっていました。途中、前以って送ってもらっていた写真を原田さんの解説とともに上映しました。流石原田さん。みんなの名前を漏らさず紹介。その後、時間いっぱいお喋りで盛り上がり名残惜しく閉会。しかし、そのまま28名が2階バーでの二次会に参加。本来静かな雰囲気のあるバーで騒ぎまくり、回りの方にはちょっと響きだっただかも。

次回は2年後。福岡にて泊りがけて計画される模様。楽しみにしています。



平成30年11月17日 於 ホテルニュー長崎

昭和53年卒業生同窓会報告

町田 毅（昭53）

全員もれなく還暦を過ぎた今日この頃、歳を重ねるごとに感じる時の流れの早さに、A氏からのLINEメッセージ『今年は卒業40周年にあたりますよね。何か計画などされてますか』が届くまで同窓会のことをすっかり忘れていました。

5年ごとに長崎で同窓会を開催するようになっていた私たちの学年ですが、開催年の指摘を受けて、いつも連絡調整を引き受けてくれる女性幹事の森田（分藤）さん、大園（吉田）さんに谷口（松添）さんも参加して頂き、名ばかりの口出しだけ男性幹事の佐々木君、藤井君、山崎君に小生を含めて緊急招集をかけての幹事会で、今回は長崎くんち前日の10月6日（土）に平和公園近くの宝来軒別館で開催することになりました。

久々に長崎くんちも堪能してもらいたいとの思いで日程を調整したのですが、まさかの台風25号まで参加希望を受けてしまいました。おまけに開催日の午後長崎最接近との予報に開催は困難かとも思いましたが、女性幹事の『予定どおりにやりましょう！』との強い意思表示を受け、台風もスピードを速めて東方に進んで行き、天候も回復して無事開催することが出来ました。

交通機関の乱れなどで数名が参加することが出来なくなりましたが、それでも35名が集まり、団結の強さを強く感じました。会場に着くなり懐かしい顔をあちこちに見つけ、談笑の輪ができ、その瞬間からみんなの生き生きとした表情や歓声に、学生時代の光景がタイムスリップしていました。

冒頭に記念写真の撮影を済ませ、藤井君の司会でいよいよ同窓会がスタートしましたが、卒後40年の時の流れをしみじみと噛み締める瞬間でもありました。引き続き小生の挨拶ののちに、毎回連絡や企画準備にと時間を割いてお世話をしてもらっている森田さんと大園さんに感謝と敬意を払い、乾杯の発声をお願いして歓談が始まり

ました。どのテーブルでも途切れることのない話し声と笑顔絶やさず聞き入る顔々に、卓上を飾る食事にもなかなか手がつかない状況でした。

一段落した頃に恒例の近況報告が始まりました。マイクを片手に一人一人が40年のそれぞれの人生を振り返り、仕事のこと、家庭のこと、孫自慢(?)など、笑顔を交えながら話し、また、聞き手側も相槌を打ったり、時にチャチャを入れたり、片方の耳では報告を聞きながら、もう片方の耳ではテーブルでの話をしたり聞いたり、懐かしく楽しいひと時を過ごしていました。

近況報告の後はお楽しみ抽選会です。あみだくじによる抽選に当たったラッキーな人には、くんち手ぬぐいなどの景品が贈呈されました。どうぞ記念に飾ってください。

笑顔と歓声の同窓会も瞬間に終了の時間を迎えました。とりあえず1次会はこれで終了ですが、当然ながらこれで終わるわけにはいきません。2次会までの時間に余裕がありましたので、多くが会場のホテルニュー長崎までチンチン電車で向かいました。余談ですが、昔の電車の記憶しかないみんなは、最近替わった電停名に戸惑ったとのことでした。

ラウンジバーでは今までの興奮と喧騒も一段落し、シックな雰囲気の中での語らいのひと時を過ごし、また、53年卒同窓生グループLINEにふるふるしたり招待したりして交換していました。

同窓会では、青春時代をともに過ごした仲間とその思い出で、一瞬にしてみんなが笑顔になります。台風を物ともせず参加してくれた皆さんありがとうございました。5年後の次回は新しい年号での開催になります。今回残念ながら参加できなかった皆さんもぜひスケジュールを調整して参加いただき、もつともつ盛大な同窓会にしましょう。寄る年波に負けないように、くれぐれも健康に気を付けて過ごしましょう。



長崎大学薬学部卒後40周年記念同窓会
平成30年10月6日（土）於 宝来別館

昭和58年卒業の同窓会 in大阪

幹事代表 春名 克彦 (昭58)

本年2月11日に昭和54年入学、58年卒業の同窓会を新大阪ワシントンホテルプラザで開催しました。

以前から関西（大阪）で同窓会をやって欲しいとの要望を受けていましたので、関西在住の天野さん、内村君、手島さん、前田君、山本君に声をかけ、賛同を得て、思い切って開催することにしました。そこで、まずは手始めに皆で集まり打ち合わせをということで、大阪駅周辺で第1回目の準備会（飲み会？）を開催し、このメンバーが幹事となって同窓会を行うことにしました。

幹事会では、まず日程を決めなければならないということで、「秋は学会等が多くてホテルを押さえられない。」「病院、薬局勤めの人が多いから、日月連休になるときがいいのでは」と色々意見が出て、三連休の中日になる2月11日に決定しました。

また、開催場所は、新幹線や飛行機で皆さんが来られるだろうから新大阪駅近辺ということで、新大阪ワシントンホテルプラザになりました。

今回の幹事で集まって打ち合わせをする中で、内村君が学生時代からは想像できないほどマメな人になっていたことに正直驚きました。同窓会準備スケジュール表なるものを最初の幹事会の時に作成・持参し、その後も進行管理とホテルとの連絡調整を一手に引き受けてくれま

した。人は変わる物だとつくづく思いました。大変助かりましたありがとうございます。また、山本君が同窓生への案内関係の仕事を引き受けてくれ、参加者の把握や返事が来ない方へのアプローチを直前までしていただき大変助かりました。こちらは学生時代の真面目さがそのままです。

場所が大阪ということで、大学とは縁もない場所だし、九州からは遠方になるし、何人の方に参加していただけか、また、インフルエンザの流行や数年に一度の寒波襲来など不安材料満載でしたが、最終的に24名の方に参加していただきました。

当日の場を盛り上げるための準備として、宮崎君が撮影した現在の大学の風景写真をパワーポイントで紹介したり、前田君が持参した卒業アルバムを宴会場に置いておいたりしました。しかし、そんなことには関係なく、宴会が始まる前からあちこちから笑い声が絶えず、卒業後かなりの時間がたったはずなのに、すぐに学生に戻っているかのごとくで驚かされました。

宴会の司会は、流暢な関西弁でしゃべり巧みな前田君が行い、まずは、席が隣になった人とのコミュニケーション、その後ひとりずつ近況報告をしていただきました。この近況報告の中で、一番盛り上がったのは、五十嵐君が40歳を過ぎてからフィギュアスケートを始め大会



平成30年2月11日 於 新大阪ワシントンホテルプラザ

参加者（敬称略 旧姓）

上段 三浦、岡本、橋本、浦野、宮崎、林、登本、五十嵐
中段 中村（玉）、上野、佐藤、川越、高岡、植山、中西、竹本
下段 手島、後藤、天野、内村、山本、春名、前田、松原

にも出たと報告した時です。そして、今は協会の役員をしていて、皆さんもご存じの有名な選手とも顔見知りとのことで更に盛り上がりました。当然、その選手の追っかけをしている人（本人の了解を得てないので匿名）から羨望のまなざしで見られてました。

それ以外にも出席名簿の氏名欄で宮崎君の名前の字が違っていた出来事を緒にして、学生時代に授業の出席代筆をしていた山本君が当時もこの間違っただけで出席カードを提出してたよという暴露話も出てきました。この後も、今では考えられないような話など次々に出てきましたが、各人の名誉のため、ここに書くことは遠慮しておきます。

さて、今回は大阪開催ということで、同窓会に併せてUSJや京都方面に出かけたり、大阪近辺に子供さんが住んでおられ、孫の顔を見に行かれるなど、同窓会以外

でもそれぞれ楽しんでいただけたようです。

そして、次回同窓会です。いろいろ意見が出て、最終的に、現役で大学に入った方々が還暦を迎える2020年に長崎で開催することになりました。幹事になられる方々にはよろしくお祈りします。なお、還暦同窓会なので、何か赤色の物を身につけてくるようにとの話も出てましたが、結局どうなったかは「？」ですので、結論は幹事にお任せしたいと思います。

なお、同窓会の翌日は、またまた寒波到来で交通機関に遅れ等が出てましたので、特に日本海側にお住まいの方は無事帰れましたでしょうか？次にお会いしたときに教えてください。

まだまだ公私ともお忙しい日々を過ごされることと思いますが、次回同窓会でお会いできるようお互い頑張りましょう。

放射薬品学教室 「三浦博史先生を囲む会」

金子 富美 (昭59)

ハワイと長崎を行き来され、人生を謳歌されている、敬愛する我が師、三浦博史先生（昭33）を囲む“ほぼほほ女子会”を11月10日長崎市の中華街に近い桃源洞というお店で開催しました。

ニュースでもお馴染みの火山の火砕流がハワイの三浦先生のお宅のすぐ近くまで迫っている話題や、認知機能検査が昨年と全く同じだったというエピソードから記憶法の伝授、さらには我々にお勧めの愛読書「思考の整理学」外山滋比古著のご紹介など、三浦先生の80代とは思えない、機知に富むエネルギッシュなお話であつという間に3時間近くが過ぎていました。

来年もまた集まろう！！という参加者一同の声でお開きとなりました。北村先生（昭50）をはじめ今回諸事情で参加できなかった方、きちんとご連絡できず、情報を聞いてないよ！！という方、申し訳ありません。めっちゃ

楽しい会でした。次回はぜひご参加ください。そしていつかはハワイで集まれたらいいな！と夢が広がる楽しい夜でした。

熊（草野）保子さん・池田（横田）富美子さん（昭55）、川島可奈江さん（昭56）、堀田（鈴木）千加子さん・森田（酒井）明美さん・岡本（宮岡）信恵さん・入来（田之上）圭子さん（昭57）、上村義子さん・金子富美（昭59）の放射の同門の9名の（元？）女子達のさすが放射女子というにぎやかな中に、教室は違うのですが、そしてただ一人の男子参加者でもある森田宏樹くん（昭59）が植研の代表としてメンズの花？を添えてくれました。連絡を取ってくださった池田千加子さん（昭55）に深謝申し上げます。

写真：三浦先生に素敵なき様を今も学ぶ10人の元学生と三浦先生です。



平成30年11月10日 於 桃源洞

有吉敏彦先生の米寿を祝う会が開催されました

小川 尚孝 (昭62)

2018年5月26日(土)、福岡市のホテルセンターザ博多において有吉先生の米寿を祝う会が開催されました。

有吉先生は、昭和35年に赴任され、退官された平成8年3月まで衛生化学教室で教鞭を取られました。その間に衛生化学教室に在籍した卒業生は約270人にもものほります。

今回の祝う会は、2013年に行われた祝賀会から5年ぶりに開催される同門会でもあり、連絡先がわかった約230人に祝う会のご案内をしたところ、九州内の卒業生はもとより中四国や関西、遠くは関東から合計69名の方に出席いただきました。

祝う会は16時過ぎからの受付開始でしたが、待ちきれなかったのか16時前から出席者が集まり始め、ロビーで懐かしい顔を見つけては近況報告などを行い、和気あいあいと待ち時間を過ごされていました。有吉先生が会場に到着すると更に盛り上がりを見せていました。

17時になり、集合写真撮影が行われた後、祝う会が開始されました。まず、この会の発起人である山口先輩(昭56)と松本先輩(昭58)を代表して山口先輩からのご挨拶がありました。次に松本先輩より有吉先生に記念品の贈呈が行われ、教室最後の修了生である竹石さん(平6)から花束の贈呈がありました。

有吉先生の謝辞では、先生の近況の報告といつまでも若々しい先生の健康法の秘訣を披露なされ、会場を沸かせていました。

乾杯の音頭は濱崎先輩(昭54)がとられ、その頃には会場の熱気も最高潮に達していきました。その後、食事が運ばれ各々テーブルでの歓談が始まりましたが、暫くすると席を自由に動きながらあちこちで楽しそうな輪ができ昔話に花が咲いていました。そうこうしているうちにあっという間に20時を過ぎ、祝う会も終盤を迎え、濱本先輩(昭57)のご発声のもと万歳三唱が行われ閉会となりました。

この祝う会で司会を担当させていただきました。慣れない司会で何かと失礼があったとは思いますが、発起人のお二方や事務局代表の本多君(昭62)ほか、祝う会に出席された皆様のおかげで無事終わることができほっとしています。皆様のご協力ほんとうにありがとうございました。

最後になりますが、当日参加できなかった衛生化学教室の同門の皆様からも祝意や温かいメッセージをたくさんいただき心より感謝を申し上げます。

当日の出席者は次のとおりでした。(順不同・敬称略(旧姓))なお、間違い等がありましたら何卒御容赦ください。

出席者

主賓：有吉先生

栗屋 (鴨川) (昭36)	井関 (福川) (昭41)
高松 (昭42)	村上 (清益) (昭43)
内田 (昭44)	中村 (桑原) (昭44)
藤井 (院昭44)	和泉 (昭45)
阿部 (中村) (昭49)	大平 (昭49)
池田 (酒井) (昭49)	栗原 (吉武) (昭50)
上ノ段 (昭50)	江口 (昭50)
緒方 (昭50)	小河 (昭50)
佐田 (昭53)	浦田 (昭53)
田村 (竹丸) (昭54)	濱崎 (昭54)
荒木 (高比良) (昭55)	安松 (昭55)
山本 (院昭55)	濱崎 (小泉) (昭56)
八田 (昭56)	山口 (昭56)
濱本 (昭57)	羽野 (川越) (昭58)
松尾 (篠崎) (昭58)	松本 (八尋) (昭58)
田頭 (末廣) (昭58)	清水 (林) (昭58)
松本 (昭58)	菅野 (山下) (昭58)
中島 (中島) (昭59)	竹尾 (手島) (昭59)
津田 (羽野) (昭59)	一川 (院昭59)
入潮 (昭60)	岡成 (昭60)
山本 (原嶋) (昭60)	南里 (昭60)
山口 (村島) (昭60)	坂本 (院昭60)
中山 (小高) (昭61)	佐藤 (真下) (昭61)
豊藤 (柴田) (昭61)	藤 (昭61)
中嶋 (中野) (院昭61)	小川 (昭62)
本多 (昭62)	富田 (平2)
武田 (峰) (平2)	山本 (平2)
渡邊 (工藤) (平3)	鈴木 (杉浦) (平3)
中村 (平3)	中島 (福井) (平4)
富田 (宮崎) (平4)	川野 (院平4)
岡田 (平5)	賀川 (平5)
瀧口 (院平5)	竹石 (平6)
津次 (坂野) (平7)	西島 (佐藤) (平7)
豊山 (平7)	浜野 (工藤) (平8)
城戸 (西村) (平8)	



平成30年5月26日 於 ホテルセントラーザ博多

「13年経って」

秋吉 隆治 (平3)

この度、長崎大学薬学部同窓会の副会長を拝命いたしました。佐々木会長より長崎大学と長崎県薬剤師会の橋渡しの役目を仰せつかっております。県薬剤師会の役員に就いている間、しっかりその役目を果たしたいと考えております。

さて、私は大学を卒業後、製薬企業のMRとして勤務の後、平成17年にその企業を退職し長崎に戻ってきました。薬剤師として一から勉強するためです。大学在学中からアルバイトでお世話になっていた濱田先生（昭54）の門を叩き、薬剤師としてスタートしました。それから13年経ち現在に至ります。その13年の間には、遅まきながら結婚し子供も授かりました。その子は今や関西弁の両親の下、流暢な長崎弁で反抗しております。13年間とは言え、様々な方と出会い、経験を積む日々で、あっという間だと感じます。年齢とともに過ごしている日々が短く感じるようになってきているのかもしれません。

私事はこのくらいにして、県薬剤師会では今年4月に長崎大学薬学部2年生、3年生を対象に「第1回薬学生セミナー」を開催しました。薬学生に病院、薬局薬剤師の業務、薬学の知識を活かす行政の業務を紹介、また長崎県の土地柄、生活環境の良さをそれぞれの担当者が熱く紹介し、長崎県での就職を選択肢の1つとして考えてもらう機会を企画しました。長崎で活躍する人材が生まれればと今後も継続していきたいと考えています。

また県の薬剤師の先生方にご協力をお願いする平成30年度の事業として「調剤情報共有事業」を進めています。先んじて現在五島市で行われている調剤情報共有システ

ムを長崎全県下に拡大するもので、医療情報ネットワークとして全国で最大規模の「あじさいネット」と共同したシステムになります。この事業によって薬局間で患者の調剤情報を共有し、薬剤の重複や相互作用を即時性を持って知ることができ、薬剤師が薬を通じて患者に安心、安全を提供する事業になります。この事業の担当は当会常務理事の井石先生（平4）で今年5月に全国に向けてこの事業を紹介されています。今後数年かけて成功事例として全国に発信できる形が構築できるよう、私も参画している事業です。諸先輩方と同僚の先生方にご指導、ご鞭撻をいただきたく、よろしくお願いいたします。

このようなICTを活用した事業は様々な進められていて、一つ危惧するのは遠隔服薬指導です。特区として福岡市などで施行されています。ICTを活用し利便性だけを追求するのではなく、高齢者にも簡便で優しいシステムでなくてはなりません。将来避けられない状況だとしても私は安全な服薬指導の基本は対面による信頼関係も重要だと思います。離島、僻地を抱える長崎県では、五島の先生方が「かかりつけ薬局」のあり方を「離島・僻地地域居住者への医薬品の適正使用の為の一般医薬品の供給方法・管理体制および情報提供のあり方についての研究」として研究されています。これを基に対面での服薬指導を原則としながら、患者さんのサポートがさらに進むような、ICTの活用について行政と協同して模索されています。県薬剤師会もこの研究をサポートしています。

と、色々な事を教わりながら、考えながら、飲みながら日々過ごしております。

今年も長崎の地で

津田（柳原）由佳（平5）

平成30年10月20日（土）風頭の矢太樓にて、平成5年卒業生同窓会を行いました。幹事は、長崎県民3人娘、中村、後藤（吉田）、津田（柳原）です。いろいろ悩んでみましたが、去年に引き続き、長崎の地で開催することとしました。

私たちの学年は、卒業後、毎年欠かさず同窓会を続けており、小浜温泉、二日市温泉、嬉野温泉、唐津、武雄温泉、湯布院など九州各地を持ち回りの幹事さんで開催してきました。時期、場所によって多かったり、少なかったりですが、このまま毎年集まりたいねと話しています。去年は、中華、カラオケでも盛り上がり、最後は4次会までという元気なプランでしたが、泊まってゆっくり飲むのもいいかもね、という意見を受けて、今年も長崎での宿泊（宴会のみの参加もあり）を企画しました。

皆勤賞の小嶋くん、佐野さんをはじめ、大阪から岡田くん、兵庫から山崎くん、その他九州各地から集まってくれて、男性11名女性10名の参加でした。宴会場で楽しく食べて飲んだ後、今年も脱落者なく2次会の部屋に移動し、皆で、まーるくなって語りながら飲みました。その後、ノンアルマイカーチームが帰宅。ほろ酔いチームが帰宅。しっかり飲んだけど翌日用事がある長崎チームが帰宅。あとは、それぞれ、いろいろなことを語りながら過ごしました。その日は、長崎でラブフェスというイベントが開催されていて、花火が絶好の場所で見れるはずではありましたが、全く誰一人気づかず盛り上がっていました。

仕事やプライベートを優先する時期も過ぎ、結婚、出産で参加が難しい時期も過ぎ、これからは女性陣が少し増えるかな、と思います。話題も、子育ての悩みから、健康や、親の話題へと変化してはきましたが、年に一度会える仲間と近況を話すのはとても楽しかったです。お決まりの「また来年ね」という挨拶でお別れしてきました。当日や直前にやむを得ない事情でキャンセルとなった松下くん、森裕美子さん、山口幸子さん、来年は、待っとるけんね。

アラフィフ世代となりましたが、少しずつ時代についていこうとLINEグループを作成しました。これから連絡も簡単になります。きっと、これからも毎年どこかで集まると思います。ずいぶんと会ってない皆さんも、いつの日か会えるのを楽しみしています。



宿泊メンバー（すべて旧姓・敬称略）
森（浩）、小嶋、山田、松元、野田、前田、山崎、岡田、佐野、野上、松原、中村、吉田、柳原



平成30年10月20日 於 矢太樓

参加メンバー（すべて旧姓・敬称略）
上段 豊嶋、森（浩）、山田、松元、野上、前田、松原、木村
中段 小嶋、森本、鶴丸、岡田、柳原、中村、佐野
下段 松葉、倉地、野田、山崎、吉田、賀川

近況報告 長崎大学薬学部に戻って参りました

都田 真奈 (平9)

平成30年8月1日より長崎大学薬学部育薬研究教育センターの教授として着任しました平成9年卒業の都田真奈です。私は、長崎大学薬学部時代は渡邊正己教授の御指導のもと放射線生物学分野の研究をしました。博士号取得後は米国ウイスター研究所にポスドクとして2年弱、その後は長崎大学医学部において免疫学分野の教育・研究に13年間携わりました。母校である長崎大学薬学部へ戻る機会はないのであろうと考えていた矢先、薬学部教育を専門にする育薬研究教育センター専任教授へのお話を頂き、異動して参りました。

近年、少子高齢化、核家族化、情報化が進み、薬剤師の社会から求められる役割が大きく変わりつつあります。このような変化に対応できる薬剤師を育て、支援する部署が育薬研究教育センターです。最初に述べましたように略歴から私には臨床経験が少ないことを感じられると思います。そのため、現在は、大学病院薬剤部において薬剤師としての経験を積む機会を頂き、来年度から本格的に関与する事前実習に挑む準備をしております。知識経験はまだまだ不十分ではありますが、これからも自己研鑽に努めて参ります。どうか長い目で見ていただけたら嬉しく思います。

研究教育に関しては、去る9月27日に育薬研究教育センター主催の第二回若手シンポジウムを開催しました。その中で、学部学生と大学院生によるポスター発表会がありました。皆しっかりとデータをまとめ上げ、素晴らしい発表でした。研究室配属前の学部学生にとっては研

究に触れるまたとない機会であったと思いました。さらに、薬剤師として製薬会社や薬剤部に勤務しておられる卒業生による講演は学部学生や大学院生の進路決定を左右するような内容であり、とても有意義なものと感じました。

また、10月8日から二日半、東京都府中市で開催された薬学教育者のためのアドバンスワークショップに参加しました。このワークショップでは、若手の薬学系大学の教員、大学病院薬剤師、薬局薬剤師がそれぞれの施設から1名ずつ集まり、学習成果基盤型教育に基づいて6年制薬学教育の成果を考えます。今回は“卒業時における教育の質保証”というテーマで学習しました。8種の小テーマについてSGD(スモールグループディスカッション)プラス発表を行い、さらに文部科学省や厚生労働省の方のお話を聞く機会も得ました。朝7時の朝食から始まり、夜中2時半終了の情報交換会まで研修所に缶詰状態で過ごし、ランチを食べながらの議論やコーヒブレークの代わりにコーヒー持ち込みの会議、まるでブラック企業ならぬブラック講習会のような内容でしたが、内容はとても充実しており、次世代の薬剤師についてじっくりと考える良い機会となりました。次世代薬剤師のキーワードは研究力、コミュニケーション力、アピール力のようなようです。

現在、異動してきて2ヶ月たちましたが、毎日のように薬学教育や薬剤師について考え、次世代の薬剤師教育に夢を膨らませております。

“維新” 伝心

目良 国寛 (平10)

10月27日(土)、平成最後のこの年に私たちは長崎の地に集結した。10年前の3学年合同同窓会以来、学年単独では卒業後20年経ってようやく実現した同窓会である。幹事を務めてくれた学年理事の岸川くん、八幡くんの粋な計らいにより、当初は大学生協での伯水楼パーティーが企画されたが、文教キャンパスの計画停電と重なってしまい、急遽銅座の銀鍋へと変更された。働き盛りで子育て世代の40台前半でありながら、遠くは東京、沖縄から集まった数は35名、2次会から参加の嶺くん、能勢くん(院平12)を加えると学年のほぼ半数が一堂に会する盛大な夜会となった。幹事のお二人には改めて感謝!

岸川くんの乾杯の発声を皮切りに、長崎の美味しい刺身を頂きながら飛び交う酒と笑い声。学生の頃から比べて

すこし薄毛でぼっちゃりしたヒト(私を含めて)、いい感じに歳を重ねたヒト、ようやく見た目に歳が追い付いたヒト(小笹くん)等様々であったが、心は皆あの頃のままだに昔話に花を咲かせ、楽しい夜は一気に更けていった。今回残念ながら出席できなかった皆さんに少しでもエピソードをと記憶を掘り起こしてみたものの、翌朝までのことは断片しか思い出せない。酒のせいかな加齢のせいかな、否、3次会のカラオケでの「マグネット・ジョーに気をつけろ/星屑スキャット feat. 岩下」に全て持って行かれたからだろう。楽しい夜の思い出を記事化してお届けできないこの無念。そこは本執筆の依頼を忘れ、1ヵ月後に進捗を尋ねてきた理事のお二人との連帯責任ということでご勘弁いただきたい。唯一お伝えできることは、ただただ楽し

かったこと、そして私たちは離れていても何年経っても心で通じ合っていると実感できたことであろう。あの頃の私たちはバカをやっても喧嘩をしてもお互いを尊重し合える“以心伝心”の仲間であったと思う。そこに今回は同窓会用のグループLINEが加わり、距離や時間と言う物理的障壁を越えて、映像で、文字で心を交わすことが可能となった。開催日まではあと1ヵ月、あと1週間と気持ちを高め合い、会の途中にはアルバムが並行作成され、アメリカの山田ミッキーにもLIVEで届けられた。翌日も思い思いに懐かしい場所を訪れては共有し合い、祭りの後の虚脱感に心地よいノスタルジーを添えた。何よりまた明日から頑張ろうという気持ちを奮い起こしてくれた。私たちより若い同窓生の皆さんにとっては「何を大袈裟に」と思わ

れるだろうが、現代のように皆が気軽に携帯電話を持てるようになったのは私たちが卒業した平成10年頃だったわけだから、学生時代と比較したコミュニケーションの進化は、私たちにとってまさに“維新”な伝心なのである。

今回は5年後か7年後（コッコデショの年に合わせて）、幹事目良で開催することとなった。その頃は皆50歳前後。学生時代には想像もできなかった年齢であり、体は言うことを聞かないだろう。ストレス社会の中で辛いことも多々起こるかもしれない。でもきっと私たちなら大丈夫。だって僕らはあの時と同じ空の下でいつも『心』でつながっているから。また元気に長崎で逢いましょう！（次回までにグループLINEへの参加、個別連絡網の拡大にご協力をお願いします）



平成30年10月27日 於 銀鍋

出席者（いずれも旧姓）

上段左より 藤、八幡、榎本、秀島

3段目 小笹、中野、稲本、吉田康、岩下、森下、石崎、早稲田、中司、長友、福重

2段目 井口、目良、井上、仲宗根、安渡、原澤、本田、西村

前列 岸川、矢野、松本、松井、田中、中村、西本、吉田未、福田、堀田、林、涅槃仏 鶴殿

治療薬剤学研究室バンザイ

福地 弘充（院平14）

恩師の佐々木 均先生（昭53）が本年度より長薬同窓会の会長に就任されたことに伴い、本部幹事を拝命しました福地弘充です。同窓会報の発行にあたり私の長崎大学大学院での思い出と近況を報告させていただきます。

私は大学卒業後、長崎大学病院薬剤部の研修生を経て、大学院博士前期課程に進学し治療薬剤学研究室に入りました。当時の治療薬剤学は佐々木 均教授と中嶋幹郎助教授（現在・実践薬学教授・昭57）の研究室で修士時代はお二人の先生方からご指導を受けました。そして

博士前期課程を平成14年に修了した後は、実家の鍵屋薬局に就職すると同時に、医学系の博士課程へ進学し、佐々木 均教授が担当されている薬物動態学研究室の1期生となり、博士（医学）を取得しております。その後、鍵屋薬局を継ぎ、現在に至っています。また、薬学部が6年制教育に変わった後は、長崎大学薬学部で4年生の「実務実習（事前実習）」の非常勤講師を務めており、次年度に薬局実習に来る学生達へ漢方薬の講義と演習を行っています。

大学院生時代は、抗不整脈薬アミオダロンの薬物動態に関する研究を行っていました。当時治療薬理学研究室は毎週土曜日に薬理学研究室と合同でファーストセミナーを行っていました。当時の薬理学は中村純三教授（現在・長崎大学名誉教授）、西田孝洋助教授（現在・薬理学教授）、川上 茂助手（現在・医薬品情報学教授・平7）という先生方で、治療薬理学の佐々木先生、中嶋先生も含めてそうそうたる先生方の中でのファーストセミナーでした。今となっては学生時代の苦労があったから、何事にもくじけない体力と気力を持ったと思っています。また、私が大学院を受験する時に当時M2（平成12年修了）の中司千恵さん、現在は薬剤部におられます原澤仁美さん、現在アメリカ在住の山田三樹子さんには本当にいろいろとお世話になりました。ありがとうございます。そして私がM1時のメンバーは、M2（平成13年修了）が中野幸助さん、工藤麻衣子さん、福山珠希さん、保坂真利央さんで、同級生のM1（平成14年修了）は坂本一樹君、友成正英君、原田文香さんと私で、後輩の4年生（平成13年卒業）は安田晋也君と富永さや香さんでした。

そして、私にはM2時の悲しい思い出があります。それは楽しみにしていた韓国への教室旅行へ行けなくなったことです。あれは今でも忘れられません。それは当時のM1（平成15年修了）メンバーは上田祥子さん、手嶋無限君、野島志乃さんで、4年生（平成14年卒業）は小山奈緒さんと村田雪香さんでしたが、韓国旅行の1週間くらい前に小山さんが「風邪気味で、もしかしたら旅行に行けないかもしれません。」と言い出しました。私は小山さんに「大丈夫？無理せんごとな。」と元気づけていましたが、私も前日になってすごく体調が悪くなり病院を受診したところ「急性上気道炎」と診断され、入院するはめになったのです。しかし一方の小山さんは風邪も治

り無事に韓国旅行へ行きました。このときは本当に悔しかったです。私も韓国旅行へ行きたかったです。（笑）

さて、今年のおくんちの「コッコデショ」は勇壮でしたが、私が住んでいる町も7年に一度「川船」を奉納する「麴屋町」という踊町です。前回2014年のおくんちでは麴屋町川船の「根曳頭」という大役を務めました。当時は1年前から準備を開始し、月・水・金曜日は8kmのランニングと腹筋250回、腕立て150回を行い、木曜日は体幹を鍛えるため「地獄の女性鬼教官」の指導によるボクササイズを取り入れたエアロビクスによるトレーニングを2時間行っていました。これは、正に「大人の部活」でした。7月からは実際に川船を出して10月のおくんち本番に向けた練習を毎日行いました。その頃は練習のおかげで体重が5kg減り、贅肉がとれたバキバキの筋肉質の身体になりました。7年に1回はライザップ状態です。2014年のおくんちでは「根曳頭」ということもあり、練習も、終了後の飲み会も一回も休まず皆勤賞でしたが、その無理がたたってしまい、おくんち後、42歳の時に体調を崩してしまいました。一時は73kgあった体重が59kgまで落ち、大変な思いを経験しました。厄入り、厄払いというように、42歳という年齢は今までの無理がきかなくなり、身体が若者から「おじさん化」する時期だと改めて感じました。しかし、幸い現在は体重も元に戻り以前と変わらない生活をしています。来年の3月あたりからは、3年後の2021年のおくんちで麴屋町川船に参加するため、ゆっくりとしたペースで体力づくりに頑張っていこうと考えています。

大学院生時代の同期のメンバーとは、毎年夏に集まっています。今後も長崎大学での思い出やつなかりを大事にしていきたいので、同窓生の皆様今度ともどうぞ宜しくお願いいたします。

ぐびろが丘の清掃を終えて

澤勢 瑞城（平15）

8月5日例年に輪をかけて猛暑であった夏の朝、ぐびろが丘の清掃へ行ってきました。

中嶋前ぐびろ会会長よりこれが会長になって一番目の仕事だからと言われて数年ぶりにやってきた。私もいつの間にか子供を連れてくる年代となった。同様に実務実習でうちの薬局に来てくれていた廣瀬花菜子さん（平26）、翌日から実習に来る予定の草野泰輝くん（学5）、私の二つ後輩の竹尾公秀くん（平17）も駆けつけてくれました。（竹尾君は二人の子供さんも参加してくれた！）皆さんどうもありがとう！

前日さんざんアルコールを飲んでたメタボの私には

夏の日差しと暑さは容赦なく襲い掛かりあつという間に汗だく、給水。（笑）

6才の娘に助けられながらやつのことで八つ手を振る枯葉をかき集める。娘もいつの間にか慣れてきたのか方々で学生さんやOBの先生たちと共同作業。小さい頃からこうして周りの大人がやるのを見ておくことコミュニケーションをとっておくのもいいのかもしれない。そんなことを思いながらツーンと痛む腰をこぶしでコンコンとたたきながらまた給水。（笑）

清掃後は70年前に思いを馳せ、亡くなった先輩方の無念を想い合掌。子供たちもこういう空気をきちんと感じ

てじっと手を合わせていた。後輩の私たちがこれからも長葉の名に恥じぬようがんばりますと誓い線香の煙をあとに帰った。

終了後は西洋館にておいしく食事を頂き、さあ帰途に！と思ったが西洋館でのフリーコンサートに娘が食いつき（彼女はアイドル志望（笑））その後眠気眼をこすりながら2時間付き合った。

今回声をかけ来てくれた3名はいずれも初めてのことでしたがきつといい経験になったことと思います。年に一度戦火の悲惨さ、平和の尊さそうしたことを考える機会であるぐびろが丘の清掃。まだ参加したことない方はぜひ参加してみませんか？



第一回コニシバ会・薬剤学若手同門会 合同同門会の開催

宮元 敬天（平20）

平成30年8月4日（土）、長崎市新地中華街の中華園にて初めてコニシバ会と薬剤学若手同門会の合同同門会が開催されました。皆さんは長崎大学薬剤学研究室がどのくらいの歴史を有しているかご存知ですか？実は長崎大学薬剤学研究室はまもなく開講から60年を迎える歴史ある研究室になります。長い歴史を有しており、同門の方もかなりの人数になる関係で、先々代の教授であられた柴崎壽一郎先生と小西良三先生がご在籍であったところの卒業生を中心とするコニシバ会と現教授である西田孝洋先生が薬剤学研究室に着任されたところからの卒業生を中心とする薬剤学若手同門会という二つの同門会がございます。これまではそれぞれの会で定期的に集まり同門会を行っておりましたが、今年初めて合同で行う運びとな

りました。8月のお忙しい中にも関わらず33名の卒業生にご参加いただき、在學生と合わせ53名の方にお集まりいただきました。

今回は同門会に先立ち坂本キャンパスにて特別講演を行いました。特別講演では本年より長崎大学病院准教授・副薬剤部長に昇進された兒玉先生（平13）よりご自身の研究や臨床経験についてご講演をいただきました。また、2015年4月より薬剤学研究室を含む医療薬学系4研究室（医薬品情報学、薬物治療学、実践薬学、薬剤学）は坂本キャンパスの旧歯学部病院7階に移転しており、新しい研究室をご存じでない方に向け、研究室ツアーも実施させていただきました。

その後場所を新地中華街の中華園に移し、同門会を行



平成30年8月4日 於 中華園（長崎市新地中華街）

いました。会の初めに小西先生よりご挨拶をいただき、薬剤学研究室の歴史やこれからの学生に対する希望などをお話しいただきました。また、コニシバ会の会長である佐々木先生よりコニシバ会の近況報告を含めたご挨拶をいただき、若手同門会の西田先生による乾杯のご発声で会が始まりました。宴席では、出席者全員がマイクを持ち、各自近況を紹介していただきました。在学中の学生も参加したのですが、諸先輩方より貴重なお話を伺うことができ、長い歴史を有する研究室ならではの有意義な時間を過ごすことができたようでした。

次回は2019年に薬剤学研究室創立60周年を記念して行いたいと考えております。今回はご参加いただけなかった方々も是非次回の同門会でお会い出来たらと思っております。

ご参加の皆様（敬称略）

小西良三先生ご夫妻、松村（田中）祐子、今村明久、森 つよ子、小笠原正良、佐々木 均、藤井 実、佐々木（山内）喜美子、木山（池田）容子、中倉政司、中嶋幹郎、中村忠博、井口（岩川）浩子、鷺尾兼寿、木山雄一、塩田英雄、出口（中村）由紀子、森井（山北）朋美、石山直子、川上 茂、能勢誠一、兒玉幸修、兒玉（堀下）美由紀、稲岡奈津子、西 順也、西（津田）佳代子、小林（山崎）ちひろ、木下真理子、黄 智剛、西田孝洋、麓 伸太郎、Wang Shu、徳永彩子、木下瑛莉子、谷口麻里子、小牧浩幸、下川正二郎、原田義貴、赤城友章、佐伯結衣、田中里奈子、長田実佳、長岡希歩、仲本光哉、松本真由子、佐田ひかり、徳留千江、溝内菜那、三輪千紘、渡辺由佳、岡見和哉、宮元敬天

社会人2年目

迎 武紘（平24）

現在、神戸薬科大学で特任助教を務めています（2年目）。これまでに思ったことを、半分備忘録のように、また半分グチのように書きたいと思います。（Q&A形式かつ主観の多い駄文のため読みにくいと思います。）

Q. 一番おどろいたこと。

A. 学生数が半端なく多い。実際、各学年200名×6学年在籍しており、研究室にも4、5、6回生が各学年15名程度所属している。この人数に対して、研究室の教員の上限は4名であり、客観的にも人数は多いと思う。逆に、それだけマンパワーとして充実させることのできる伸び代が大きいと思うこともできる。それなので今までの自分になかった“運営側適正”や“バイトリダー資質”が問われているように感じた。

Q. 1年目と2年目の違い。

A. 頑張るタイミングがわかった。1年間通して経験（研究活動を行いつつ、教員としてのイベント（学生実習、科研費、ラボワーク）をこなす）できて、いい意味で無理ができるようになった（ストレスチェックは全く問題はありませぬ）。要領というものもあるが、体力や時間配分に見通しが立てられるようになったのだと思う。だが、自分の5年後10年後の姿や働き方を思い浮かべたら、今のままで良いのか？という気持ちもある。

Q. 国立と私立（4年制と6年制）の違い。

A. システムが違う。実感として、4年制（薬科学）と

6年制私学薬学部は、どちらが良いというわけではなくシステムとして全く違う。とくに研究面では、その期間が全く違う。（所属大学での研究期間はおよそ4ヶ月。）卒業後、99%が研究職以外に就職すると思えば、その出口を持った学生に‘カリキュラムとしての研究活動’と+aをどう準備するか色々考えなければならぬと思っている。

Q. 特任助教について。

A. 制度として難しさを実感している。助教=任期なし+教育、特任=任期あり+教育、ポスドク=任期、教育なし（実感として）。とくに学生との接点の持ち方、時間の使い方、研究結果の出し方がそれぞれ違う。教育的失敗って何だろうと思う。

Q. 最近思うこと。

A. 「苦勞を買う」という言葉がなんだかすごくわかってきた。主観や客観でさえ論証を求められるが、実感はそれ自体が事実なので、将来、物事を考えたり伝えたりする上での大切なリザルトになると思う。また、いい苦勞をさせてもらっていると思う。

Q. 今の職場にひとこと。

A. 現在の所属研究室長には大変感謝している。研究分野も違う、薬剤師免許もない、教育歴もない、何も無い自分を温かい目で見守ってもらえて感謝しかない。

近況報告

林田 颯志 (平28)

こんにちは。平成28年卒業の学年理事の林田颯志といいます。今年で3年連続の投稿になりますが、今年も色々あったなと振り返るいい機会になっています。私は職場変わらず長崎みなとメディカルセンターで働かせていただいています。今年は職場が夜勤制を導入し、勤務形態が変わったり、医薬品情報室 (DI室) を兼任したりと環境も変わりました。抗癌剤の調製やレジメンの登録、医師が薬剤をオーダーする際に使用する処方オーダーリングシステムに関わらせていただくようになり、1年目の頃からさらに業務の幅が広がり、仕事の種類も増え、分からないことが多いことで苦労することも多いですが、先輩方や上司などに相談しながら比較的楽しく仕事しています。DI室以外にも前年度に引き続き病棟でも仕事をさせていただいており、泌尿器科、眼科、循環器科、呼吸器科など多くの科の患者さんの薬物治療に関わらせていただいています。

「業務が増えてそれをこなしていく事が、仕事が出るようになる事ではない。」ということを上司からは日々強く言われております。現時点での業務が最善であるのかどうかを常に考え、最終的にどう患者さんに役に立つのかを考え、業務を更新していく事が大事であるということです。これが口で言うのは簡単ですが、なかなか難しい。。。ですが、無駄な事をやめてもっと患者さんに役に立つ事をしたいと当然ですが私もそう思うので、積極的に声を出して頑張りたいと思っている今日こ

の頃です。

学術の方も昨年度は腎臓病薬物療法学会に参加させていただき、腎臓に焦点を当て、他病院での腎機能低下患者に対する適切な投与量設計のための取り組みや日常の薬物治療に役に立つ考え方や参考となる症例報告など新たな知見を得ることができました。当院でも他院の参考になるような論文を出せるように頑張らないといけないと感じるキッカケにもなりました。やはり分かることが増えていくのは楽しいもので、頑張っていくモチベーションになっています。

仕事以外では、バスケットボールで指を骨折するという事故を経験し、初めて手術室に患者さん用の手術着を着て、患者として入室しました。指に2本の針を刺して折れた骨を固定する30分位の術式で終わりましたが、指先だけの手術でも少し恐怖心がありました。自分がこんなにビビりだったのかと嫌になりつつも看護師さんや主治医の声かけに本当に安心感を感じました。内臓を切除したりする患者さんの恐怖心は本当に想像も出来ないのので、この経験を活かし、薬剤師も手術前の患者さんにかける言葉で少しでも心の負担を軽減できればと思ったことが最近感じたことです。

そして写真ですが、6年連続出場中の五島夕やけマラソンの今年の写真です。3人とも病院は違いますが、長崎大学出身の同じ研究室出身のメンバーで薬剤師をやっています。それではまた、来年～。



平成29年卒 薬学バドミントン部同窓会

松本 善敬 (平29)

平成30年2月24日(土)、長崎市銅座町の炉端亜紗喜三郎にて平成29年卒の薬学バドミントン部(以下、薬バド)の同期で同窓会を行いました。約1年前の卒業式の日にもみんなで集まって飲み会を行ったときに「同窓会したいね」となってから早1年弱、開催されました。薬バドの私たちの代は、私を含めほとんどが長崎に学生、社会人として残っている場合が多く(なんと今回出席した13名のうち9名が長崎在住)、長崎で同窓会をやるということになりました。長崎大学薬学部を卒業してまだ1年しか経過していませんが、久しぶりに顔を合わせた際

にはどこか長葉時代に戻ったかのような懐かしい気持ちになりました。今までは飲み会をすると、サークルの話や研究室の話、恋愛話などをしていたのが、仕事の話、同級生や先輩方の結婚の話で盛り上がり、私もそんな年齢になったのだと非常に感慨深い時間でした。元部長の平木君の乾杯の音頭に始まり、会は2次会3次会と盛り上がりましたが、旧友たちとの再会についついお酒をたくさん飲みすぎてしまいました(迷惑をかけたみんな、ごめん(笑))。会の最後に、みんなと近いうちの再会を誓って同窓会を締めました。



平成30年2月24日 於 炉端亜紗 喜三郎

上段(左より) 菅、笠江、小川、松本、木下、前田、相原
下段 橋口、平木、鶴崎、高橋、牧野、佐藤

新人芸優勝報告と後輩へ向けてメッセージ

谷口 隼輔 (平30)

長崎大学病院の薬剤部に勤め始めて、早くも半年が経ちました。私の近況報告と薬学生の後輩たちへのメッセージを書きたいと思います。

長崎大学病院では、新人1年目のうちに配属された部署で仕事をしつつ、各部署での研修を行っています。そんな中、毎年恒例行事で九山ソフトボール大会というのがあります。九州、山口の大学病院薬剤部が集まりソフトボールの試合をして交流するのですが、スポーツの魅力の一つで、いつもならつい恐縮してしまう目上の先生とも、楽しくお話することができていました。大会後には大宴会があるのですが、新人には自己紹介を兼ねた新人芸を披露するという大役が待っていました。その年の流行りを取り入れるのが定石なのですが、今年は如何

せんこれは!というものが少なく、ネタ被りを避けるため、同期みんなで悩み、頭を痛めました。手分けして動画などもオリジナルで準備し、その甲斐あって新人芸は2連覇の1位に、私自身も身にあまるのですが、MVP賞受賞という結果を残すことができました。

余韻に浸る間もなく、大会が終わってからは本格的に薬剤管理指導室の研修が始まり、実際に患者さんや医師、看護師とやりとりをするようになり、病棟での薬剤師が如何に重要なのかを体感しています。

思い出せば学生の頃、就職先を絞る際に、病棟実習の経験が大きく影響したのですが、その中でも医学生と一緒に内科を見学する内科実習は貴重なものでした。もともとは実家に近いところで就職をと考えていた

ところでしたが、医師、看護師、検査技師、といった方々とお話する機会があり、より多くの人が集まる場所で仕事をしたいと考えるようになりました。

長大病院にいと定期的に薬学生の皆さんが実習に来られますが、自分自身がそうだったように、「自分はこういう風に薬剤師をしたい」と考えるきっかけが見つければいいなあと思います。それは病棟だったり、払い出しの業務の中だったり、薬局で患者さんとやりとりをする中だったりいろんな場面に存在していると思うのですが、これから実習に来る人たちには、積極的に臨んでそ

の機会を得てほしいです。例えば講義だけでなくプラスで質問してみたり、他職種の人ともお話ししてみたり、選択科目の実習をとったり、臨床で働く人と話して感じること、覚えることはとても多いということを伝えたいです。自分はすでにそういった時期は過ぎてしまい、もう一周したいなと考えることもあるのですが、今は当時見てきたものを思い出して仕事の支えにしています。まだ新人ではありますが、今後は後進のため逆にそういうきっかけを与えられる薬剤師になれるよう、精進して参ります。



記念（卒業）アルバム

久壽米木 直弥（平30）

こんにちは、昨年のアルバム制作委員長をさせていただいた久壽米木です。最近は後輩たちがアルバム写真撮影をしているのを見て昨年の我々の姿を思い出しているところです。

長崎大学薬学部は平成18年度入学者から2学科制（薬科学科4年制、薬学科6年制）となり、同期入学者の卒業年が異なります。そこで4年生で卒業アルバムではなく、記念アルバムとして制作しています。

今年も長薬同窓会からはアルバム制作にあたり援助をいただき、この場を借りてアルバム制作委員会一同深く感謝申し上げます。

昨年の夏頃から制作の準備に入りました。外での写真撮影では天候不良により日程変更もあり苦労したこともありましたが、各研究室ごとに趣向を凝らした演出や日常の風景などの写真を集めることができ、仲間たちと共に最高の思い出のアルバムを作ることができたと実感しております。

今年のアルバムもきっと一生の宝物になるのだろうと期待しているところです。

今後とも様々な面で長薬同窓会にはお世話になります。ありがとうございます。

2017年10月アルバム制作委員会一同



タイのチュラロンコン大学への短期留学プログラムに参加して

佐藤 雄大（平30修1）・山本 純（平30修1）・寶徳 亮太（平30修1）

9月11日から20日までの10日間、タイのチュラロンコン大学への短期留学プログラムに参加させていただきました。本プログラムでは、大学内外の施設や研究室の見学、現地の学生との交流を行いました。

まず、チュラロンコン大学のキャンパスツアーに行きました。初めにチュラロンコン大学の教育方針などをプレゼンを通して紹介していただき、そのあと大学内の施設を回りながら一つ一つ丁寧に説明していただきました。驚いたのは大学内に薬局が設けられており、チュラロンコン大学で開発した薬も販売していることでした。このようなことは長崎大学では考えられないことであったため、非常に新鮮でした。さらに研究室を訪問した際、大学内で採れる植物を用いて実験・研究を行っていることも説明していただき、地域に根付いた研究を行っていることを知り、タイの創薬研究について理解することができたと思います。



次にバンコクにある赤十字社へ訪問しました。そこでは、毒ヘビに対する血清を製造しており、工場内を職員の方とともにまわり丁寧に説明していただきました。また、赤十字社ではヘビの博物館やスネークショーを見学し、ショーではヘビを首から掛ける非常に貴重な体験もしました。

また、BIOTECというタイ国立研究センターを訪れ、3つのラボ見学をしました。BIOTECには国内外から研究者が集まり、それぞれの研究室では抗マラリア薬の開発などタイ独自の研究が行われていました。その日の午後、シリラート死体博物館へ行きました。ここは、法医学博物館と解剖学博物館からなり、法医学的に解剖が必要だった遺体や犯罪者の遺体がホルマリン漬けやミイラとして展示されており、圧倒されるとともに勉強になりました。

週末は学生の方々にタイの寺院、グランドパレスや有名なマーケットに連れて行って頂きました。寺院はアユタヤに行き、丁寧に参拝の方法や寺院の歴史を教えて頂



き、ガイドブックには載っていない情報まで知ることができました。次にグランドパレスでは、タイ王国の国民の国王に対する信仰心また、国王の王宮の大きさも感じることができました。最後に、マーケットでは「水上マーケット」と「チャトゥチャック・マーケット」に行きました。それぞれ日用品・食品・お土産などが数多く売られており、値段は日本とは比較にならないほどの安さで、屋台では食べ歩きなどをして楽しみました。平日とは違った形でタイの文化を思う存分堪能することができました。

感想

今回の留学は自分にとって初めての海外だったので、不安もあったのですが、基本的に現地の学生が同行してくれるため安心でき、日本では経験できないような経験をたくさんすることができたので、自分自身の成長にもつながったと感じています。また逆にチュラロンコン大学の学生が長崎大学に留学した際は手厚くもてなそうと考えています。最後になりますが、吉田先生、薬学部学務係の方、寶徳君、山本君や関わった多くの方々に感謝いたします。（佐藤）

今回のタイ留学で、自分の英語力の向上はもちろん、BIOTECも訪れ、タイの創薬科学を肌で感じる事ができました。この度、このような貴重な経験をさせていただき、チュラロンコン大学の多くの先生や学生、並びに引率して下さった吉田先生に感謝申し上げます。（寶徳）

今回のタイへの留学は、タイでの創薬またタイの文化を学ぶ非常に良い経験になりました。はじめこそ不安でしたが、本当に親切なタイの学生や先生方に恵まれ、無事留学を終えることができました。先生方、学務の方、同窓会、佐藤君、寶徳君、この留学に関わって下さった皆さんに感謝致します。（山本）

最後になりますが、今回このような貴重な経験をできたのは薬学部創立125周年記念事業の寄附金（同窓会のご支援）のおかげです。改めて感謝と御礼を申し上げます。そして、このような貴重な留学プログラムが今後も継続し、多くの学生が自分たちと同じように貴重な体験をできることを心から願っています。



台北医学大学薬学部の臨床薬学トレーニングプログラムコースに参加して

鈴木 莉乃 (学部4年) ・高崎 晴稀 (学部4年)

私達は今年の8月25日から9月5日の約2週間にわたり、長崎大学田添グローバル交流推進基金奨学金制度の支援により、台北医学大学薬学部の臨床薬学トレーニングプログラムコースに参加した。本プログラムは台北医学大学薬学部が毎年夏季に開催している短期研修コースで、本学からは薬学科の学生が毎年1~2名参加している。内容は台北医学大学附属病院の薬剤部見学と薬学部の研究室での実験体験や学生との交流であった。



台北医学大学附属病院は800床もの大病院で、薬剤部は地下1階にありとても広いスペースを有していた。薬剤部では、漢方薬を調剤する部門と西洋薬を調剤する部門が別々に設置されており、患者はどちらの薬でも選べる仕組みになっているところが日本とは大きく異なっているところだった。また試験

験的ではあったが、処方箋を読み取り自動で調剤を行う機械が導入されており、将来の調剤はこうなのかとの印象を持った。台湾では漢方薬がよく用いられているため、街には多くの漢方薬店があった。

薬学部では、薬物分析研究室において、漢方薬に含まれるアリストロキア酸の副作用である腎障害の研究に関する実験体験を行った。博士課程の学生や研究生についてHPLC等の機器の説明・取扱いやマウスの腎切片の作成・観察などを行った。

研修中は、英語で自分の研究内容を説明したり、台北医科大学の教育・研究・診療について説明を受けたりしたが、台北医学大学の学生はとても英語のレベルが高く、日常会話から研究内容まで英語でコミュニケーションをとっていた。同じ薬学を学ぶ者同士で医療について話し合えたことはとても有意義だった。また、放課後や週末には色々な場所を訪れ、台湾の文化や伝統的な食べ物、そして人の温かさに触



れることができたことは大変貴重な経験となった。(感想)

今回の留学での滞在中には病院、薬局ともに見学させて頂きましたが、日本と違うところ、類似しているところを実際に目にする事で、今の日本の制度について客観的な視点で考えるきっかけになりました。また、研究室見学では、研究室の教授や研究室に所属する学生の方々と研究のことや台湾の文化、食事のことを話すことができ、とても楽しく、有意義な時間を過ごすことができました。(鈴木)

初めての長期滞在で不安に思っていましたでしたが皆さんにとっても親切にいただき楽しい時間を過ごすことができました。現地の学生と交流する中で英語でのコミュニケーションの難しさや文化の違いを知り、学生のうちにこのような国際交流ができたことはとてもいい経験になりました。(高崎)

最後になりましたが、今回このような貴重な経験をさせていただいたのは、薬学部創立125周年記念事業の寄附金からの補助を受けることができたおかげです。この経験を今後に生かしていけるよう励んでまいります。ありがとうございました。



グビロが丘下の薬専防空壕跡地の慰霊碑周辺の清掃活動

増田 智成 (学部4年)

平成30年8月5日(日)、長薬同窓会の年間行事の一つであるグビロが丘下の薬専防空壕跡地の慰霊碑周辺の清掃に参加させていただきました。例年にも増しての酷暑が続く中、学部学生及び大学院生16名をはじめ、卒業生、同窓会役員と事務局の総勢40名(卒業された先輩のお子様にもお手伝いいただきました。)で清掃を行いました。今年も、多くの方と協力して、1時間ほどで枯れて落ちた木の枝、落ち葉やごみ、雑草などをきれいにする事ができました。作業を終え、冷えた飲物で喉を潤した後、慰霊碑へ焼香し、原爆で亡くなられた先輩方への追悼を行いました。慰霊碑の前での写真撮影を行った後、場所を移して先輩方と懇談しながらの会食を行いました。

私はこの清掃活動に1年次以来の、2回目の参加となりました。慰霊碑周辺の樹木も心なしか背が伸び、良く繁り、木陰が広がったように感じました。また新しく、被爆当時の悲惨な状況を伝える説明板が設置されました。ふと思うのは、73年前も変わらず暑かったのだろうという事です。先輩方は、その中で防空壕を掘っていたと聞きます。この慰霊碑は、彼らが過ごすべき本来の日常が原爆によって奪われてしまった事をひしひと伝



えています。今、僕には、先輩方の無念を汲んで汗を流して清掃し、日々勉強する事しか出来ません。しかし、それしか出来ないからこそ、一生懸命に行う必要があるのだと思いました。清掃活動が少しでも慰霊に繋がれば、と思うと同時に、こうして長崎で薬学を修める僕たちの日常が続いていることに感謝いたします。

最後になりますが、このような貴重な活動を毎年開催してくださる同窓会役員の皆様、いつもありがとうございます。そしてご多忙のところ時間を作って参加くださった皆様、非常に暑い中本当にお疲れ様でした。この清掃が何年にもわたって、永く続くことを願っております。



2018年九州薬学連盟大会結果

本多 湧大 (学部3年)

平成30年5月4日～5日 九州薬学部連盟による大会
が開催されました。
結果は以下の通りです。

男子テニス部

予選 長崎大 7-0 長崎国際大
長崎大 3-4 崇城大
本戦 1回戦：長崎大 4-0 長崎国際大
準決勝：長崎大 4-1 熊本大
決勝：長崎大 3-4 崇城大

女子テニス部

予選 長崎大 6-1 福岡大
長崎大 6-1 熊本大
本戦 2回戦 (1回戦シード)：
長崎大 4-2 九州保健福祉大
決勝：長崎大 4-3 熊本大



準硬式野球部

1回戦：熊本大 16-7 長崎大 (7回コールド)
5位決定戦：長崎大 27-5 崇城大 (5回コールド)



バスケット部

<1日目>
第1試合：長崎大 85-75 九州看護福祉大
第2試合：長崎大 42-67 熊本大
<2日目>
第1試合：長崎大 67-44 九州保健福祉大
第2試合：長崎大 55-78 熊本大OB



薬学バドミントン部

男子ダブルス×2 女子ダブルス×2
ミックスダブルス×2 の団体戦で予選リーグ5位
決勝戦：
長崎大 1-4 九州保健福祉大
(男子第1ダブルスが勝ち)
長崎大 2-3 崇城大
(男子第1、第2ダブルスが勝ち)



サッカー部

<1日目>
長崎大 0-0 長崎国際大
長崎大 0-3 福岡大
<2日目>
長崎大 4-1 第一薬科大
長崎大 3-1 熊本大



第54回薬学祭について

薬学部自治会長 本多 湧大 (学部3年)

2018年11月23～24日に第54回薬学祭が開催されました。運営に際し、長薬同窓会から多くのご支援をいただき充実した学祭となりました。ご協力いただいた方々に深く感謝申し上げます。以下、各種企画の様子をお知らせいたします。

23日 (金)

- ・サークル模擬店：多くの方に訪れていただくことができ、すべてのサークルが成功を納めました。
- ・お茶会：薬学部の方をはじめ、外部の方にもたくさん来ていただき、茶道の良さを伝えることができました。
- ・Bluemountainライブ：あふれんばかりのエネルギーでとても活気に満ちたライブになりました。
- ・球技大会1日目：同窓会杯球技大会としてバスケットボール、バレーボール、ソフトボール、フットサル、ソフトボールの試合が行われました。研究室チーム、学年チームが入り交じり、各種種目で白熱した試合となりました。

24日 (土)

- ・1年生バザー：1年生が8班に分かれて出店しました。企画から準備や片づけを通して、計画力を身につけることができたようです。また、先輩や教職員、外部の方と交流を深めることができました。
- ・お笑いライブ：各種サークルから精鋭が集い、練り上げたコントで会場を大いに沸かせました。
- ・自治会出し物：ダンス、ビンゴゲーム、お笑いネタの披露を行いました。ビンゴゲームは多くの方に参加していただき、盛り上がりました。
- ・球技大会：1日目の試合を勝ち進んだチームが決勝トーナメントに挑みました。前日よりもさらに盛り上がりました。結果は以下の通りです。

バスケットボール	
優勝	医薬品合成化学
準優勝	2年
3位	1年
バレーボール	
優勝	薬品分析化学
準優勝	ゲノム創薬学
3位	細胞制御学
4位	薬化学
フットサル	
優勝	ゲノム創薬学
準優勝	1年
3位	細胞制御学
ソフトボール	
優勝	医薬品合成化学・治療薬剤学
準優勝	細胞制御学
3位	創薬薬理学・機能性分子化学
4位	衛生化学



白衣贈呈式

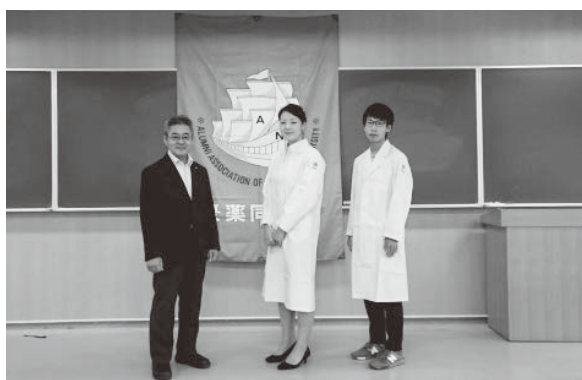
角田 航 (学部1年)

平成30年9月27日、あれだけ居座っていた残暑も和らぎ、しのぎ良い日が多くなりました。心地よい風に秋の訪れを実感するなか、白衣贈呈式を執り行っていただいたことに、一年生を代表して感謝の意を述べさせていただきたいと思います。

長崎大学薬学部はその長い歴史の中で、ノーベル化学賞を受賞された下村 脩先生をはじめ、多くの長崎大学薬学部の卒業生が日本の医薬品開発及びその供給にご尽力されていることと存じます。それと共に多くの卒業生

が長薬同窓会に籍を置き、この白衣贈呈式以外にも校外実習や講演会など、さまざまな形で私共にご支援を頂いております。そのようなご支援のお陰で不自由なく勉学に励むことが出来ています。

長薬同窓会副会長よりいただいた激励のお言葉を胸に留めると共に、この感謝の気持ちを忘れることなく日々邁進していきたいと思っています。このような素敵な式を設けていただきありがとうございました。



旧小野島校舎跡記念碑清掃

池田 朝美 (平28)

平成30年11月17日、小野島校舎跡記念碑の清掃を実施しました。小野島記念碑周辺は、諫早市により清掃されていましたが、記念碑の清掃と、周辺の落ち葉等の掃除を、長薬同窓会役員平成28年卒業の池田が行いました。



クラブOB会だより

平成30年度野球部OB会

増田 智成 (学部4年)

平成30年11月10日の土曜日、宝来軒別館にて毎年恒例の野球部OB会が開催されました。今年はOB21名と現役部員14名が参加しました。

開会に際しまして、野球部同窓会会長の西脇金一郎先生(昭33)よりご挨拶をいただきました。先生はご挨拶の中でOB会の歴史に触れられ、前回の東京オリンピックの開催された1964年に第1回目が開催され、今年で55回目の開催であるとお話いただき、野球部の伝統が長く今日まで続いていることを実感させていただきました。また今年の10月にお亡くなりになられた下村 脩先生が薬品分析教室で助手であられた頃の思い出話も披露していただきました。続いて今年度の九薬連での結果報告が行われ、野球部の健闘をたたえていただきました。この後、菅原正典先生(昭51)の乾杯のご発声でOB会がスタートしました。ビールや紹興酒を飲み、おいしい中華料理に舌鼓を打ち、OBの方々から当時の野球部の話や、学生生活、就職、病院・薬局の話など幅広く、貴重なお話を伺いました。



会も終盤に差し掛かり、中嶋幹郎先生(昭57)より野球部部長挨拶をいただきました。そして、こちらも毎年恒例となっている、現役部員による巻頭言と薬学部校歌が力強く披露されました。また、OB会を代表して牛嶋信人先輩(平15)より準硬式野球ボール1ダースが現チームキャプテンの塚本亮也君(学3)に手渡されました。



最後に、古賀健太郎先輩(平20)に万歳三唱で会を締めさせていただき、今年の野球部OB会は閉会しました。今年も多くOBの方々に集まっただき、野球部が活発に活動していることを改めて感じました。お忙しい中、参加していただいた上に野球部に寄付金をくださったOBの皆様、本当にありがとうございます。OBの皆様方のお力添えと期待に篤く御礼を申し上げるとともに、今後ともよりよい方向に野球部を発展させ、伝統を守っていきたく思います。また、今年ご参加いただけなかったOBの皆様も、新年号になる来年のOB会でのご参加をお待ちしております。皆様のご健勝を願って報告を終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。



平成30年11月10日 於 宝来軒別館

第34回薬学硬式庭球部OB会

永田 将太郎 (学部5年)

今年は11月10日に34回目を迎える薬学硬式庭球部OB会を開催いたしました。

松山町の市営庭球場にてOB対現役生の対抗戦を行いました。対抗戦には当部活の創設者である山本先輩(院昭55)をはじめ、顧問の西田先生、テニス部発足時にテニスのご指導を頂いた百武さん、古賀先輩(平8)、小嶺先輩(平24)、辻田先輩(平24)、濱崎先輩(平27)、矢野先輩(平26)、山元先輩(平26)、吉崎先輩(平27)、田川先輩(平30)、平戸先輩(平30)、森本先輩(平28)、中原先輩(平29)といった先輩方がお忙しい中参加してくださいました。今年の試合結果は去年と同様に、男子はOBが現役生に、女子は現役生がOGに大きく勝ち越すという結果となりました。試合後、現役生は対戦したOBの方々からご助言を頂き、大変良い経験になりました。来年はより良い試合ができるように現役生にはより一層練習に励んでもらいたいと思います。またOBも現役生と

の試合で大きな刺激を受け、OB、現役生の両方にとって大変有意義な時間となったのではないのでしょうか。

対抗戦後には、懇親会を平野町の宝来軒別館にて行いました。参加者はOB、現役生合わせて50名以上にのぼり大盛会となりました。新旧幹部のあいさつ、1年生の自己紹介、OBの方々のお話と進み、現役生にとってはテニスの話のみならず、普段聞くことのできないようなお仕事の話などを聞くことのできた貴重な時間となったと思います。続く二次会、三次会も多くの方が参加してください、充実した時間となりました。

長崎大学薬学硬式庭球部OB会も今年で34回を迎え、今後さらに発展していくことと思われます。今年は残念ながら出席できなかった先輩方もご都合がつかましたら、来年のOB会に是非ご参加ください。現役一同、心よりお待ちしております。



平成30年11月10日 於 市営庭球場

庶務報告

岸川 直哉 (平10)

○定例理事会

平成30年4月1日(日)13時00分より薬学部第2講義室で開催されました。山中國暉同窓会長(昭43)の挨拶の後、平成29年度事業報告および決算報告、監査報告、庶務報告、役員改選案、平成30年度事業計画案および予算案が討議されました。

続いて、関東支部原 正朝支部長(昭60)よりアルカディア市ヶ谷(東京都)で開催される平成30年度長薬同窓会定期総会について説明がありました。

○平成30年度長薬同窓会定期総会

平成30年6月2日(土)16時00分より、東京都のアルカディア市ヶ谷にて開催されました。開会の後、物故者への黙祷、校歌斉唱が行われた後、山中同窓会長の挨拶に続いて日本薬剤師連盟副会長の本田あきこ先生よりご挨拶がありました。その後、原 正朝支部長(昭60)を議長に選出して議事に入り、平成29年度の事業報告ならびに決算報告、それに対する監査報告がなされ、承認を得ました。続いての議案として、同窓会会則の変更および役員改選案に関する討議が行われ、承認を得ました。この役員改選に伴って新たに就任された佐々木 均同窓会長(昭53)の挨拶が行われました。引き続き、新役員より平成30年度事業計画案ならびに予算案が示され、こちらも原案どおり承認されました。また、来年度の定期総会(大阪府吹田市)について近畿支部伊藤 潔幹事長(昭59)より説明がありました。これらの議事に加えて、川上 茂副会長(平7)より分析理研究所遺構の保存活動や下村 脩先生(昭26)の胸像製作に関する説明が行われたほか、長崎大学東京事務所の堀口逸子准教授から長崎大学西遊基金の紹介が行われました。総会后、「University of California San Diegoでの研究留学」と題した稲嶺達夫編集幹事(平18)からの留学報告、ならびに「臨床医から行政へ そして、今政治の世界で目指すもの」という演題で国光文乃様(長崎大学医学部卒業、衆議院議員・元厚生労働省保険局医療課課長補佐)による講演会が開催されました。総会終了後、引き続き開催された懇親会では、卒業年度ごとに

集まったテーブル対抗での長薬に関するクイズの大会が開催されるなど、たいへん和やかで盛大な会となりました。

○長薬同窓会関連施設の維持・管理

平成30年8月5日(日)に、グビロが丘防空壕跡慰霊碑周辺の清掃を同窓会本部役員・同窓生・事務局および現役大学院生・学生で行ないました。また、11月17日(土)に小野島校舎跡地記念碑周辺の清掃を、同窓会本部役員を代表して池田朝美幹事(平29)他で行ないました。

○寄贈

下記の通り、平成29年8月から平成30年7月までの間に同窓生の皆様より寄附金合計13万円が寄せられ、同窓会特製(校章入り)白衣が返礼品として贈られました。

特	鶴	大典様	20,000円
昭47薬	末澤	克己様	10,000円
昭31	川崎	武彦様	10,000円
昭43	山中	國暉様	10,000円
昭56製	山口	正広様	10,000円
院57	矢上	一英様	10,000円
昭60製	山口	綾子様	10,000円
昭60製	原	正朝様	50,000円

また、七種 均様(昭56)より、「酵素免疫測定法 石川栄治、河合 忠、宮井 潔著」、その英語版「ENZYM IMMUNOASSAY」,「MRの群像・第8巻 薬事新報社」,「毒性学-その生化学的側面 吉倉英俊 編」,「修士論文要旨(長崎大学薬学研究科)昭和53, 55, 55, 56, 57年度」計9冊の図書が寄贈がありました。

○支部長交代

鳥原支部 新支部長 織田堅一郎氏(平6)

平成30年1月支部より報告

長崎支部ぐびろ会 新会長 澤勢瑞城氏(平15)

平成30年6月30日支部総会で決定

近畿支部 新支部長 末澤克己氏(昭47)

平成30年10月14日支部総会で決定

以上の届け出がありました。

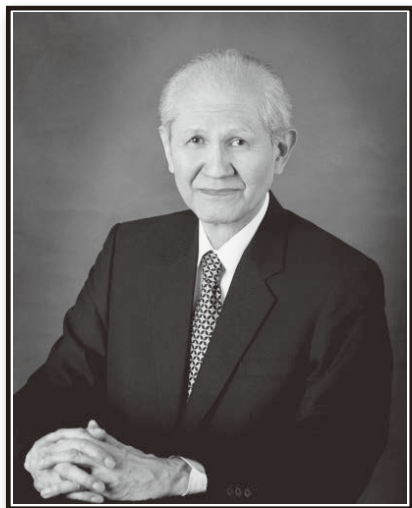
物故者氏名

前会報(57号)に発表の後亡くなった方、及び死亡が判明した方(敬称略)

氏名	卒年次	死亡年月日	氏名	卒年次	死亡年月日	氏名	卒年次	死亡年月日
北川 常廣	特	平30.5.28	北島 政雄	昭24	平30.5.23	中尾(山下) 久喜子	昭37	平30.4.17
細見 彰	特	平30.9.9	松前 繁樹	昭24	平30.3.9	井川(田川) 敦子	昭38	平29.12.17
王 万竜	昭15	昭57.12.23	下村 脩	昭26	平30.10.19	山脇(那須) 洋子	昭40	平29.12.28
桶谷 巖	昭16.12	平29.7.22	中倉 敬昭	昭26	平30.3.29	高田 和子	昭41	平29.8.23
藤井(上原) 良彦	昭19	平30.8.31	吉末(岩佐) 良子	昭28	平30.1.1	大塚 克之	昭42	平30.4.16
乃万 正	昭19	平28.4.8	服部 俊明	昭28	平29.10.14	諸見田 薫	昭43	平26.6.-
西村 善行	昭22	平29.10.6	桑原 健一郎	昭29	平28.6.-	桐木 英雄	昭48	平29.12.20
赤司(山口) 一武	昭22	平30.2.18	松島 昌彦	昭29	平29.10.-	毛利 隆美	院昭50	平27.2.-
稲丸 量一	昭23	平29.7.6	川上 萬里	昭30	平30.10.31			
坂本 一 亮	昭23	平29.6.3	高野(沖) 順子	昭32	平30.9.14			
佐藤 彰	昭23	平30.7.24	志賀(江頭) 照子	昭33	平30.5.14			
						計		30名

下村 脩先生を偲んで

故 下村 脩 氏の略歴



故 下村 脩 氏

1928年 8月27日	京都府福知山市にて出生
1948年	長崎医科大学附属薬学専門部入学
1951年	同卒業
1951年	長崎大学薬学部実験実習指導員
1958年	長崎大学薬学部助手（～1963年）
1960年	理学博士（名古屋大学）称号
1960年	プリンストン大学研究員
1963年	名古屋大学理学部附属水質科学研究所助教授
1965年	プリンストン大学上席研究員（～1982年）
1981年	ボストン大学客員教授（兼任）（～2000年）
1982年	ウッズホール海洋生物学研究所上席研究員（～2001年）
2007年	朝日賞、長崎大学名誉校友称号
2008年	ノーベル化学賞受賞
2008年	文化勲章、文化功労者
2009年	長崎大学名誉博士（薬学）称号
2018年10月19日	逝去

下村 脩先生のご逝去を悼む

下村 脩先生ご逝去のお知らせを受け、心よりお悔やみ申し上げます。下村先生は本学部の前身である長崎医科大学附属薬学専門部をご卒業され、さらに同大薬学部で助手として勤務されたのち、名古屋大学を経て、米国でオワンクラゲの生物発光に関わる研究を始められました。2008年にはその成果である「緑色蛍光タンパク質の発見と開発」によりノーベル化学賞を受賞されました。長崎大学薬学部ではこれを記念して2009年に下村脩名誉博士顕彰記念館をオープンしております。下村先生は、ご生前に“どんな難しいことでも、努力すれば何とかなる。絶対に諦めないで、最後まで頑張ろうと。”というお言葉を後進に残して下さいました。また、先生は生物発光化学発光研究の草分け的存在であり、先生のご研究の成果は、薬学や医学の基礎、臨床研究において、今やなくてはならない技術になっています。先生のごこれまでのご功績と生命科学研究へのご貢献に対し心よりお礼を申し上げますとともに、ご冥福をお祈りいたします。

長崎大学薬学部長 黒田 直敬

偉大な先輩のご逝去を悼む

下村 脩先生の訃報に接し、まことに痛惜の念にたえず、長薬同窓会一同を代表し、ここに謹んで哀悼の意を表します。先生は、1951年長崎医科大学附属薬学専門部をご卒業後、同年、長崎大学薬学部実験実習指導員となり、1958年長崎大学薬学部助手となりました。そして、1960年に理学博士を授与され、同年にプリンストン大学に研究員として留学され、1963年に名古屋大学理学部助教授に就任され、その後、米国に渡り、1965年プリンストン大学上席研究員、1982年にウッズホール海洋生物学研究所上席研究員となられ、2001年にご退職されました。1981年から2001年までの間は、ボストン大学客員教授を兼任されました。これまでの先生の研究の顕著なご業績に対して、2007年に朝日賞、2008年にノーベル化学賞、2008年に文化勲章が、また、長崎大学からは、2007年に長崎大学名誉校友、2009年に長崎大学名誉博士（薬学）の称号が授与されています。

永年にわたりアカデミアにおける教育・研究において指導的役割を果たしてこられたご功績はまことに顕著であり、先生のご活躍は長薬同窓会会員の誇りでした。ここに先生のご遺徳を偲び、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

長崎大学薬学部同窓会会長 佐々木 均

下村脩博士 長崎県・佐世保市・長崎大学合同お別れの会の報告

平成30年12月2日（日）午後2時より、長崎大学中部講堂にて、故 下村 脩博士のお別れの会が長崎県、佐世保市、および長崎大学の合同で執り行われました。

会ではまず参加者全員で黙祷し下村博士のご冥福をお祈りしました。その後、下村博士の生涯を紹介する映像が放映され、下村博士のありし日をしのびました。主催者を代表してのお別れの言葉では、中村法道 長崎県知事、朝長則男 佐世保市長、河野 茂 長崎大学長がそれぞれ下村博士との思い出を交えてお別れの言葉を述べられました。そのエピソードから、下村博士が抱いていた長崎や佐世保、長崎大学への思い、若い科学者を導くことへの情熱、そして平和への願いを、あらためて参加者で共有することができました。アメリカからは、ロスアラモス研究所のジョン・ピアソン博士が駆けつけ、お別れの言葉を述べられました。ロスアラモス研究所は第二次世界大戦において原子爆弾の製造拠点となった研究所です。下村博士は約5年前に研究所を訪問し、ご自身の体験をお話しされたとのエピソードを話されました。目の前で話すノーベル賞受賞者が原子爆弾投下の瞬間を目撃し、体験していたという事実に研究所の方々は非常に驚かれたそうです。

ご遺族を代表して、下村博士の奥様の下村明美さんとご子息の下村努博士がご挨拶され、下村博士が晩年まで何事に対しても探求する姿勢を持たれていたこと、自然と科学を本当に愛されていたことをお話しされました。科学に対して真摯に向き合う姿と愛情を持ってその大切さを伝えられる姿がお話から想像できました。その後、参加者全員で献花を行い、お別れ会は閉会となりました。

下村博士は長崎大学薬学部のことをいつも気にかけて、学生や若い教員に努力すること諦めないことの大切さを伝えてくださいました。偉大な同窓の先輩を失った悲しみはすぐには癒えるものではありませんが、長薬同窓生の一員として、あらためて下村博士のご冥福をお祈りするとともに、科学に対する真摯な姿勢や平和な世界実現への思いなどを引き継いでいくことを誓いました。

長薬同窓会編集幹事 稲嶺 達夫



長薬同窓会会則変更について

今年度定期総会において以下のとおり会則が変更になりました。

長薬同窓会会則 新旧対照表

新	旧
<p>会員</p> <p>第五条 本会員は会費を納付しなければならない。 但し納付金額は別に定める <u>当該会計年度において長崎大学薬学部</u>に在籍して <u>いない特別会員</u>より之を徴収せず。</p> <p>役員</p> <p>第十条 本会は、次の各担当幹事をおく。</p> <p>3. 編集幹事 若干名 幹事より会長之を委嘱し、会員名簿及び会報等編集事務を司る。</p> <p>会計</p> <p>第二十二条 正会員及び<u>当該会計年度薬学部</u>に在籍中の<u>特別会員</u>は会費3,000円を毎年度の当初に納付するものとする。</p> <p>第二十三条 準会員は入学の当初、入会金4,000円と修業年限に応じた毎年度<u>3,000円</u>の準会員費を納付するものとする。</p>	<p>会員</p> <p>第五条 本会員は会費を納付しなければならない。 但し納付金額は別に定める 特別会員より之を徴収せず。</p> <p>役員</p> <p>第十条 本会は、次の各担当幹事をおく。</p> <p>3. 編集幹事 一名 幹事より会長之を委嘱し、会員名簿及び会報等編集事務を司る。</p> <p>会計</p> <p>第二十二条 正会員は会費3,000円を毎年度の当初に納付するものとする。</p> <p>第二十三条 準会員は入学の当初、入会金4,000円と修業年限に応じた毎年度2,000円の準会員費を納付するものとする。</p>

変更点：

- (1) 当該会計年度において長崎大学薬学部~~に在籍する特別会員~~より会費を徴収する。
- (2) 在学生（準会員）の会費を正会員と同額とする。（白衣授与，アルバム補助，学祭補助，125周年寄付金による短期海外留学補助と準会員への補助を充実させてきたため2,000円を正会員と同じ3,000円に引き上げる。）
- (3) 編集幹事の人数を若干名に増員する。

長薬同窓会 寄附のご案内

皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、平成28年6月に開催された平成28年度長薬同窓会定期総会において、長薬同窓会への寄附金を受け付けることが承認されました。寄附金につきましては長薬同窓会の運営に活用させていただきます。

つきましては下記の通り寄附金を受け付けさせていただきますので、本会の趣旨にご賛同いただき、格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

なお、ご賛同いただける方は、次ページの寄附金申込書・白衣希望確認書をE-mail, FAX, または郵送でお送りくださるようお願い申し上げます。

寄附対象者	長崎大学薬学部同窓生 長崎大学薬学部教職員 本会の趣旨に賛同する個人、法人、団体など
寄附金の単位	個人による寄附金については1口1万円を単位とします。 法人・団体等による寄附金については1口の金額は定めません。
寄附金納入方法	<u>郵便振替</u> 口座番号：01860-3-4125 口座名：長薬同窓会 <u>銀行振込</u> 十八銀行大橋支店 普通預金 口座番号：0517453 口座名：長薬同窓会 恐れ入りますが振込手数料は各自ご負担願います。また、振込人名義には寄附者名と同じ名前でのご入力をお願いします。 <u>現金</u> 申込書を添えて現金書留でお送りいただくか、同窓会事務局へご持参ください。 ※申し訳ございませんが、長薬同窓会への寄附金の場合、税控除はありません。代りにお礼の品として白衣を贈呈いたします。
お礼の品	ご希望の方は1万円の寄附につき長崎大学薬学部の発端となった第五高等学校の校章入り白衣を1着贈呈させていただきます。 サイズは男女別のS, M, L, LL, XL (3L) となっております。 <u>次ページの白衣希望確認書</u> によりE-mail, FAX, または郵送でお知らせください。 毎年7月末までにご寄附いただいた方へ10月初旬ごろを目安に贈呈させていただきます。 贈呈数の例：10万円の寄附→0～10着まで選択可能

長薬同窓会 会長 佐々木 均

問い合わせ先：長薬同窓会事務局

〒852-8521 長崎市文教町1-14 長崎大学薬学部柏葉会館内
TEL&FAX：095-844-6383 E-mail：jimukyoku@choyaku.jp

.....年 月 日

長 薬 同 窓 会 会 長 殿

寄附者 郵便番号

住 所

ふりがな

氏 名

(※法人にあつては、法人名及び代表者の職・氏名)

卒年 会員番号

(※同窓会会員の方で会員番号がわかる方はご記入下さい。)

電話番号

(※電話番号は必ず記入して下さい。)

寄 附 金 申 込 書

1. 寄附金額 円

2. 納入予定日 年 月 日

3. 納入方法 銀行振り込み 郵便振替 現金

(※いずれかに○をお願いします)

白 衣 希 望 確 認 書

1. 白衣の希望 あり なし

2. 白衣のサイズと枚数

男性用	枚数	女性用	枚数
S		S	
M		M	
L		L	
LL		LL	
XL		XL	

(※1口1万円につき1枚、最大10枚まで)

※この申込書は長薬同窓会のホームページからダウンロードできます。

学 内 記 事

(海外渡航)

種別	職名	氏名	渡航先国	期間	渡航目的
出張	教授	植田 弘師	アメリカ	2017/11/14～ 2017/11/18	ワシントンDCのワシントン大学にて開催された5th International Symposium on Thymosins in Health and Diseaseに出席し、講演を行い、また、各国の研究者と情報交換や情報収集をおこなった。
出張	教授	田中 隆	中国	2017/11/29～ 2017/12/6	ayn社では新しい植物抽出物の開発について指導を行った。広西植物研究所では植物園視察と新しい植物由来製品開発の現状を視察桂林医科大学では新しい免疫生物学研究所の視察、Li教授の研究室視察、来年2月から長崎大学客員研究員として行う研究について打ち合わせ、植物菌類資源利用シンポジウムでは研究報告を行うと共に、中国の大学研究所が行っている天然物化学、生薬学の最先端研究の現状を聴講した。
出張	教授	山吉 麻子	スペイン	2018/5/2～ 2018/5/7	バルセロナで行われたISEV 2018は細胞外小胞に関わるサイエンスを討論するための国際会議である。自身の研究成果を発表するだけでなく、様々なバックグラウンドを持つ研究者らと議論し、細胞外小胞に関する最新の知見を得た。
出張	教授	植田 弘師	イタリア	2018/6/1～ 2018/6/6	シシリーにて開催されたThe Pain Mechanisms and Therapeutics Conferenceに出席し、情報収集をおこなった。
出張	准教授	米澤 朋	中国	2018/6/6～ 2018/6/11	最近のCui教授のメインの研究室であるForelandtech社の研究環境と3Dバイオプリンタを含む設備を紹介された。Cui教授の新規バイオマテリアルの説明と今後、これを使用した再生医療を目指した基礎研究および応用研究を討論した。現在、企画が終わり着手しているCurrent Medicinal Chemistry誌におけるThematic issueについての状況確認および討論した。Cui教授から、Chu Zhengrong (ミズノ社中国支社) 副工場長を紹介して頂いて、バイオマテリアルに関して打ち合わせを行った。
出張	教授	田中 隆	中国	2018/6/10～ 2018/6/20	広西植物研究所 黄 永林教授と機能性成分の抽出分離の指導、成分分析に関する研究打ち合わせ、植物園にて資源植物観察を行った。
出張	助教	春山 貴弘	中国	2018/6/19～ 2018/6/22	日本国内の企業数社と共同で開発しているウイルス検出法について、急成長中の韓国診断薬メーカーである「GenBody社」が興味をもっており、先方との共同開発の可能性について議論した。 また、当該検出法を現地研究所で研究員らと共に実際に実施し、検出系の利点・欠点や改良点などについて活発に議論した。
出張	助教	松尾 洋介	アメリカ	2018/7/15～ 2018/7/21	XXIX International Conference on Polyphenols and the 9th Tannin Conferenceに出席し、成果発表を行うとともに情報収集を行った。
出張	教授	田中 隆	アメリカ	2018/7/15～ 2018/7/21	XXIXth International Conference on Polyphenols and 9th Tannin Conferenceにて研究成果発表5件および情報収集を行った。
出張	助教	上田 篤志	アメリカ	2018/8/17～ 2018/8/25	256th American Chemical Society National Meeting & Expositionに参加し、自身の研究発表を行うとともに、有機化学や糖質化学をはじめとした最先端の化学研究に関する情報収集を行った。
出張	助教	吉田さくら	タイ	2018/9/11～ 2018/9/20	チュラロンコン大学内施設およびチュラロンコン大学薬学部の見学、タイ国内研究施設の見学を行った。また、チュラロンコン大学薬学部における教育・研究について説明を受けた。学部生および大学院生の講義に参加し、交流を行った。
出張	教授	黒田 直敬	タイ	2018/9/16～ 2018/9/19	チュラロンコン大学薬学部との国際交流に関する打合せを行った。
出張	教授	田中 隆	中国	2018/9/17～ 2018/9/23	雲南省臨滄市（市は日本の県に相当）にある茶自生地、栽培地、生産工場それぞれ数か所を視察すると共に、情報交換と共に研究所にて情報交換を行った。
出張	助教	松尾 洋介	中国	2018/9/17～ 2018/9/23	二国間交流事業による研究交流およびお茶の調査を行った。
出張	准教授	大庭 誠	フランス	2018/9/23～ 2018/9/28	ボルドーで行われたSymposium on Foldamers 2018に出席し情報収集を行った。
出張	教授	植田 弘師	イタリア イギリス カナダ アメリカ	2018/10/11～ 2018/10/22	10月12日～14日 Anna Maria Aloisi教授と共同研究打ち合わせとセミナー『Lysophosphatidic acid roles in the development and maintenance of neuropathic pain and fibromyalgia』を行い情報交換、収集を行った。 10月15日～17日：ロンドン滞在中のFernando Cervero教授 (McGill大学) と共同打ち合わせを行った。Imperial College Londonの奥瀬教授と共同研究打ち合わせを行った。 10/17：King's College London McMahonのStephen教授と共同研究打ち合わせとセミナーを行い情報交換、収集を行った。 10/18：トロント大学Michael Salter教授と共同研究打ち合わせを行った。 10/19～20：University of California, Los Angeles Evans教授と共同研究打ち合わせを行った。

種別	職名	氏名	渡航先国	期間	渡航目的
出張	准教授	稲嶺 達夫	アメリカ	2018/10/16～ 2018/10/21	Bernd Schnabl博士と研究打ち合わせを行い、また、米国人類遺伝学会に参加した。
出張	助教	上田 篤志	マレーシア	2018/10/28～ 2018/11/3	ICPAC Langkawi 2018 に参加、招待講演、情報収集を行う
出張	教授	尾野村 治	台湾	2018/11/21～ 2018/11/24	台湾新竹市で行われるthe 13th International Symposium on Organicにて、講演と情報収集を行う

(異 動)

異動年月日	異動内容	職	氏名	所属研究室	備考
H30.1.1	採用	准教授	福田 隼	薬品製造化学	北海道大学より
H30.3.1	採用	教授	山吉 麻子	機能性分子化学	京都大学白眉センターより
H30.3.31	退職	助教	測上 由貴	医薬品情報学	
H30.3.31	退職	准教授	近藤 新二	薬物治療学	任期満了による
H30.3.31	退職	助教	浅井 将	ゲノム創薬学	東京理科大学へ
H30.4.30	退職	助教	柴田 孝之	機能性分子化学	群馬大学へ
H30.6.1	昇任	准教授	稲嶺 達夫	薬物治療学	
H30.7.1	昇任	助教	兒玉 幸修	実践薬学	長崎大学病院准教授へ
H30.8.1	昇任	教授	都田 真奈	育薬研究 教育センター	大学院医歯薬学総合研究科 免疫学分野より
H30.8.1	採用	助教	黒崎 友亮	実践薬学	長崎大学病院より
H30.9.1	採用	准教授	山本 剛史	機能性分子化学	米国国立衛生研究所より
H30.10.1	採用	助教	小嶺 敬太	薬品製造化学	米国バイラー大学より

(学位授与)

学位記番号	学位の種類	氏名	学位授与年月日	学位記番号	学位の種類	氏名	学位授与年月日
博甲第1053号	博士(薬学)	カトウ タクマ 加藤 巧馬	平成30年3月20日	博甲第1081号	博士(薬学)	ムナカタ チエ 宗像 千恵	平成30年6月6日
博甲第1067号	博士(薬科学)	フルオカ マナ 古岡 真菜	平成30年3月20日	博甲第1082号	博士(医学)	ファルハナ モサデック FARHANA MOSADDEQUE	平成30年6月6日
博甲第1068号	博士(薬科学)	マエダ シオリ 前田 詩織	平成30年3月20日	博甲第1099号	博士(薬科学)	ワン シュ Wang Shu	平成30年9月20日
博甲第1069号	博士(薬科学)	コバユリエ 古場百合恵	平成30年3月20日	博甲第1100号	博士(薬科学)	トムフォードアマチエラ Thomford Ama Kyeraa	平成30年9月20日
博甲第1070号	博士(薬科学)	ホリ エリコ 堀 恵里子	平成30年3月20日	博甲第1101号	博士(薬科学)	ワン ウエイ Wang Wei	平成30年9月20日
博甲第1071号	博士(薬科学)	ボン ジェン チン Peng Jian Qing	平成30年3月20日				

長 薬 同 窓 会 役 員

(平成30年 8月)

本部役員

会 長 佐々木 均 昭53年 長大病院教授、薬剤部長	幹 事 中村 忠博 昭59年 長大病院副薬剤部長
副 会 長 七種 均 昭56年 諫早記念病院	〃 本多 雅幸 昭62年 長崎県福祉保健部薬務行政室長
〃 山口 正広 昭56年 長崎県環境部次長	〃 梶島 力 平 4年 長崎国際大教授
〃 中嶋 幹郎 昭57年 薬学部教授	〃 山口 拓 平 8年 長崎国際大教授
〃 秋吉 隆治 平 3年 どりいむ薬局	〃 都田 真奈 平 9年 薬学部教授
〃 藤島さとみ 平 3年 つばさ薬局	〃 藤田和歌子 平11年 医歯薬学総合研究科准教授
〃 川上 茂 平 7年 薬学部教授	〃 福地 弘充 院平14年 鍵屋薬局
監 査 高良 真也 昭57年 みどり調剤薬局	〃 手嶋 無限 院平15年 アイビー薬局
庶務幹事 岸川 直哉 平10年 薬学部准教授	〃 澤勢 瑞城 平15年 さわせ薬局
会計幹事 松尾 洋介 平15年 薬学部助教	〃 里 加代子 平17年 長大病院助教
編集幹事 鶴丸 雅子 平 5年 長大病院薬剤部	〃 池田 朝美 平28年 長崎県福祉保健部薬務行政室
〃 稲嶺 達夫 平18年 薬学部准教授	顧 問 山中 國暉 昭43年 あおかた調剤薬局
〃 宮元 敬天 平20年 薬学部助教	

学年理事

学部

昭23年	中原 潜	昭47年薬	上田 孝子	昭59年薬	金子 富美	平 8年	駒田 由美	平20年	向江 桂
昭24年	麻生 忠介	〃 製	松本 逸郎	〃 製	中村 忠博	〃	山口 拓	〃	筒井 翔一
昭25年	塚崎 邦彦	昭48年薬	山内 茂樹	昭60年薬	塩田 英雄	平 9年	平良 文亨	平21年	森田 拓也
昭26年	峰 唯信	〃 製	井手 清	〃 製	山口 綾子	〃	八木 洋一	〃	原 陽介
昭28年	寺田 洋子	昭49年薬	金崎 勝代	昭61年薬	本多 隆	平10年	岸川 直哉	平22年	測上 由貴
昭29年	野見山季治	〃 製	馬場 満輝	〃 製	谷口 智子	〃	八幡 弘樹	平23年	中本 義人
昭30年	帆士 辰雄	昭50年薬	橋間真理子	昭62年薬	森川 隆	平11年	今村 朋史	平24年学	大塚 早紀
昭31年	中尾 保敏	〃 製	松田 米人	〃 製	池田能利子	〃	水野 和美	〃 科	只熊 郁也
昭32年	長田 雅子	昭51年薬	中村 珠江	昭63年薬	小田 賢一	平12年	大山 要	平25年学	黄 智剛
昭33年	西脇金一郎	〃 製	原田 均	〃 製	神山 朝光	〃	松永 隼人	〃 科	原口 綾奈
昭34年	松尾 幸子	昭52年薬	江良 浩子	平 1年薬	嶋田 美樹	平13年	兒玉 幸修	平26年学	渡邊ありさ
昭35年	木下 敏夫	〃 製	北村 良二	〃 製	白川奈奈子	〃	萩森 政頼	〃 科	石川 夏海
昭36年	武田 成子	昭53年薬	森田 桂子	平 2年	小山 季之	平14年	河内 亮	平27年学	濱崎 久司
昭37年	青木 昇	〃 製	町田 毅	〃	山本 稔	〃	小西 宏規	〃 科	菅 忠明
昭38年	岡 邦彦	昭54年薬	七條 利幸	平 3年	北原 隆志	平15年	原田 周平	平28年学	林田 颯志
昭39年	鈴木 隆治	〃 製	濱田 哲也	〃	中村 達也	〃	松尾 洋介	〃 科	松本 啓秀
昭40年	松村 祐子	昭55年薬	七條 和子	平 4年	梶島 力	平16年	大神 正次	平29年学	川淵 有佳
昭41年	伊豫屋偉夫	〃 製	大田 佳史	〃	藤田 靖之	〃	牟田 響	〃 科	加藤 直也
昭42年	井上 一顕	昭56年薬	立花 寿子	平 5年	森本 仁	平17年	黒崎 友亮	平30年学	谷口 隼輔
昭43年	山中 國暉	〃 製	山口 正広	〃	津田 由佳	〃	三宅 秀明	〃 科	杉本 友里
昭44年	中村 和子	昭57年薬	中嶋 幹郎	平 6年	岩永 真理	平18年	稲嶺 達夫		
昭45年	中村 博	〃 製	高良 真也	〃	金村 隆則	〃	永井 潤		
昭46年薬	大西 裕子	昭58年薬	宮崎 幹雄	平 7年	土井 健志	平19年	細井 雄仁		
〃 製	田中 秀二	〃 製	松本 秀樹	〃	南 義人	〃	向江 俊彦		

大学院

昭和42年～昭和46年	富永 義則 (院昭46年)	平成 9年～平成13年	川上 茂 (院平 9年)
昭和47年～昭和51年	高橋 正克 (院昭49年)	平成14年～平成18年	手嶋 無限 (院平15年)
昭和52年～昭和56年	大木 豊 (院昭54年)	平成19年～平成23年	吉田さくら (院平21年)
昭和57年～昭和61年	中嶋 幹郎 (院昭59年)	平成24年～平成28年	村山 彩香 (院平24年)
昭和62年～平成 3年	本多 雅幸 (院平 1年)	平成29年～平成30年	小川 昂輝 (院平29年)
平成 4年～平成 8年	富田 守 (院平 4年)		

長薬同窓会支部一覧

(平成30年10月)

長崎支部ぐびろ会	会 長	澤 勢 瑞 城 (平 15)
長 崎 県 北 支 部	支部長	相 川 康 博 (昭 48)
島 原 支 部	支部長	織 田 堅 一 郎 (平 6)
長 崎 県 央 支 部	支部長	田 中 秀 二 (昭 46)
佐 賀 支 部 若 楠 会	会 長	藤 戸 博 (院昭52)
福 岡 支 部 浦 陵 会	会 長	池 田 光 政 (昭 57)
北 九 州 支 部	支部長	増 田 和 久 (昭 50)
大 分 支 部	支部長	石 橋 眞 (昭 49)
宮 崎 支 部 日 向 浦 陵 会	会 長	田 中 重 雄 (昭 45)
鹿 児 島 支 部	支部長	森 昭 雄 (昭 28)
熊 本 支 部	支部長	山 本 喜 一 郎 (院昭55)
山 口 支 部 抜 天 会	会 長	今 村 明 久 (昭 46)
広 島 支 部	支部長	青 野 拓 郎 (昭 52)
岡 山 支 部	支部長	歳 森 三 千 代 (昭 49)
山 陰 支 部	支部長	橋 本 覚 (昭 52)
四 国 支 部	支部長	井 上 智 喜 (昭 54)
近 畿 支 部	支部長	末 澤 克 己 (昭 47)
東 海 支 部	支部長	
関 東 支 部	支部長	原 正 朝 (昭 60)
沖 縄 支 部	支部長	
北 海 道 支 部	支部長	

平成29年度長薬同窓会収支決算報告

平成30年3月31日

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前 年 度 繰 越 金	5,058,021	通 信 費	988,961
会 費 (延1911名)	5,733,000	総会案内・会報発送料	637,478
入 会 金 等	1,052,000	振替加入者負担金	184,890
預 金 利 息	50	事務連絡郵便料	122,908
寄 附 金	240,000	電 報 電 話 料	43,685
雑 収 入	21,606	印 刷 費	840,322
		会 報 他 印 刷 費	840,322
		会 合 費	73,270
		理 事 会 そ の 他 会 合 費	73,270
		旅 費	541,230
		会 長 出 張 費	79,340
		役 員 そ の 他 出 張 費	461,890
		補 助 費	1,380,200
		総会および支部会補助金	560,000
		そ の 他 補 助 金	820,200
		維 持 管 理 費	107,586
		原 爆 慰 霊 碑	90,486
		小 野 島 記 念 碑	17,100
		事 務 費	89,397
		事 務 用 品 費	14,733
		電 算 機 費 用	74,664
		人 件 費	2,827,443
		雇 員 給 料 手 当	1,030,000
		雇 員 交 通 費	36,000
		臨 時 雇 員 手 当	1,761,443
		雑 費	423,707
		会 員 見 舞 弔 慰 金	80,228
		そ の 他	343,479
		次 年 度 繰 越 金	4,832,561
合 計	12,104,677	合 計	12,104,677

会計幹事、松尾洋介氏立会のもと、平成29年度に関する帳簿及び預金通帳を詳細に監査した結果、記帳及び計算は妥当かつ正確なものであり、上記の通り相違ありません。

平成30年4月23日

監 査

原 田

的 

平成30年度長薬同窓会予算

平成30年4月1日

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前 年 度 繰 越 金	4,832,561	通 信 費	1,430,000
会 費 (延2300名)	6,900,000	総会案内・会報送料	750,000
入会金等(6年制44名、4年制43名)	1,220,000	振替加入者負担金	300,000
預 金 利 息	100	事務連絡郵便料	300,000
雑 収 入	50,000	電 報 電 話 料	80,000
		印 刷 費	1,200,000
		会 報 他 印 刷 費	1,200,000
		会 合 費	80,000
		理事会その他会合費	80,000
		旅 費	1,500,000
		役員その他出張費	1,500,000
		補 助 費	1,560,000
		総会および支部会補助金	700,000
		そ の 他 補 助 金	860,000
		維 持 管 理 費	240,000
		原 爆 慰 霊 碑	200,000
		小 野 島 記 念 碑	40,000
		事 務 費	350,000
		事 務 用 品 費	50,000
		電 算 機 費 用	300,000
		人 件 費	3,266,000
		雇 員 給 料 手 当	1,030,000
		雇 員 交 通 費	36,000
		臨 時 雇 員 手 当	2,200,000
		雑 費	650,000
		会 員 見 舞 弔 慰 金	200,000
		そ の 他	450,000
		予 備 費	2,726,661
合 計	13,002,661	合 計	13,002,661

同窓会事務局だより

先日の下村先生の突然の訃報に驚きと悲しみでいっぱいになりました。とても残念でなりません。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

さて、会報もいよいよ平成最後の号となりましたが、皆様のお陰で数多くの記事を掲載できて感謝申し上げます。

柏葉会館の庭では猫が親子で数匹おり、中でも七夕に生まれた子猫3匹が何ともかわいらしく、通りすがりの学生らを癒しています。それぞれに思い思いの名前が付けられ、一匹で多くの名前をもっています。どう区別しているのやら……？また、木の上に登り、窓の外から事務局の仕事ぶりを監督しています。

来年は会員名簿発行の予定です。それぞれの学年ではSNSでつながっているのですが、事務局とのつながりもよろしく願いいたします。どうぞご住所、勤務先の変更などありましたら、お忘れなくお知らせくださるようお願いいたします。

追って、平成30年10月1日より長崎大学文教キャンパスへお車でお越しの際は、入構料金が必要となりました。詳しくは、大学ホームページにてご確認ください。



武次 郁子 記

編集後記

平成最後となる平成30年版同窓会会報をお届けします。

10月に下村先生のご逝去という悲しいお知らせが届いてまいりました。我々は下村先生が残してくださった“どんな難しいことでも、努力すれば何とかなる。ぜったいに諦めないで、最後まで頑張ろうと。”というお言葉を胸に今後も研究教育に励んでまいらねばならないと思っております。

今年は編集幹事に平5年卒の鶴丸雅子先生と平18年卒の稲嶺達夫先生に加わっていただき、3人体制で編集した初めての会報になります。今回も皆様から多くの記事をいただき、会報をお届けできたことを嬉しく思います。同窓会報を通じて皆様の交流が活発になることを心より願っております。

同窓会活動へのご参加やご寄附など皆様の多大なるご協力をいただき、同窓会活動が成り立っております。今後も皆様には同窓会活動への更なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様の一層のご健勝とご活躍を心より祈念致します。 宮元 敬天 記

平成30年12月20日印刷
平成30年12月25日発行

長 薬 同 窓 会 報

編 集 鶴丸雅子、稲嶺達夫、宮元敬天
発 行 長 薬 同 窓 会

(郵便番号852-8131)

所在地 長崎市文教町1-14 長崎大学薬学部内
TEL 095-844-6383 (直通)

095-819-2471 (ダイヤルイン)

FAX 095-844-6383

メールアドレス jimukyoku@choyaku.jp

(郵便番号870-0913)

印刷所 大分市松原町2丁目1-6

小野高速印刷株式会社

TEL 0120-58-3002



長崎大学薬学部 長薬同窓会